

データベース設定説明書

FAPJ106N/Sシリーズ
FCSJ106N/Sシリーズ
FAPGJ106N/Sシリーズ
FCSGJ106N/Sシリーズ
SAPJ006シリーズ
AAPJ006シリーズ



P型1級

火災受信機

複合火災受信機

GP型1級

ガスもれ火災受信機

ガスもれ複合火災受信機

連動操作盤

G型ガスもれ受信機



Caution

データベース設定とは別に、受信機の日時設定を必ず行ってください。
設定方法については、『かんたんガイド』を参照してください。



注意

ご使用前に、このデータベース設定説明書を必ずお読みください。
また、本文中に記載されている注意事項をよく読み、理解した上でご使用ください。

機能設定表とジャンパーピン設定表に必要事項を記入し、参照しながら設定を行うことを推奨します。

- この説明書は、かんたんガイドおよび機能設定表などとともに大切に保管してください。

NOHMI

もくじ

はじめに	3
本書の読み方	3
安全上のご注意	6
1 データベース設定にあたって	7
1-1 受信機の表示とスイッチ操作について	7
1-2 設定項目一覧	9
1-3 初期状態一覧	12
1-4 異常表示一覧	13
2 データベース設定の開始	14
通常モードからデータベース設定モードに切り替える場合	14
受信機を再起動してデータベース設定モードに入る場合	15
3 設定方法	16
3-1 防排煙復帰回線設定[01.防排煙復帰回線]	16
3-1-1 自動設定(回線数指定)	17
3-1-2 自由設定	18
3-2 設備区分設定:火災/防排煙回線L/DA[02.設備区分(L/DA)]	20
3-3 音響/音声設定[03.音響/音声]	23
3-3-1 防排煙/諸警報(L/DA)	23
3-3-2 諸表示入力(LX)	25
3-3-3 消火栓入力(HL/HV)	26
3-3-4 蓄積音響(L)	26
3-3-5 遅延音響(GL)	27
3-4 P-AT回線設定[04.P-AT回線設定]	29
3-5 終端設定[05.終端設定]	30
3-5-1 106Nシリーズの場合	30
3-5-2 106Sシリーズの場合	31
3-6 空き回線設定[06.空き回線]	32
3-6-1 火災/防排煙回線(L)	32
3-6-2 ガスもれ回線(GL)	34
3-6-3 地区音響(BKF,F,K)	37
3-7 OPスイッチ用途設定[07.OPスイッチ用途]	40
3-8 各種連動設定[08.連動設定]	41
3-8-1 自動連動設定	41
3-8-2 連動要因設定	48
3-8-3 連動設定	53
3-8-4 AND連動設定	57
3-8-5 消火栓連動設定	60

もくじ

3-9	表示機設定[09.表示機設定]	61
3-9-1	地区窓表示機設定	62
3-9-2	メッセージ表示機設定	67
3-10	遮断スイッチ設定[10.遮断スイッチ]	71
3-11	逐次/拡大鳴動時間設定[11.逐次/拡大鳴動時間]	73
3-12	蓄積解除回線設定[12.蓄積解除回線設定]	74
3-13	遅延解除回線[13.遅延解除回線設定]	75
3-14	文字情報設定[14.回線・端末文字情報]	76
3-15	オプションメッセージ設定[15.P-ATオプションメッセージ]	79
3-16	防排煙順次起動設定[16.防排煙順次起動]	80
3-17	防排煙一括起動[17.防排煙一括起動]	82
3-18	自動試験日時設定[18.自動試験日時]	83
3-19	HOST設定[19.HOST設定]	83
3-20	非常放送終端器設定[20.非常放送終端器EB±]	84
3-21	スイッチ操作音設定[21.スイッチ操作音]	85
3-22	諸警報保持設定[22.諸警報保持]	85
3-23	ガスもれ保持[23.ガスもれ保持]	89
3-24	初期化設定[24.初期化]	89
3-25	SDカードについて[25.SDカード]	90
3-26	説明書(二次元コード)について[26.説明書(二次元コード)]	92
4	データベース設定の終了	93
4-1	終了方法1	93
4-2	終了方法2	94
5	よくあるご質問(Q&A)	95

はじめに

この説明書は、P型1級火災受信機、P型1級複合火災受信機、P型1級(自動試験機能付)火災受信機、P型1級(自動試験機能付)複合火災受信機、GP型1級ガスもれ火災受信機、GP型1級ガスもれ複合火災受信機、GP型1級(自動試験機能付)ガスもれ火災受信機、GP型1級(自動試験機能付)ガスもれ複合火災受信機、連動操作盤、およびG型ガスもれ受信機のデータベース設定方法について説明しています。上記機器が正しく機能するように、この説明書をよく読み、データベース設定を行ってください。なお、この説明書は大切に保管してください。

本書の読み方

ここでは本書の使い方や、本書で使用する警告やマークの意味などについて説明しています。

本書の構成と使い方

本書の構成と使い方について以下に説明します。

1. データベース設定にあたって

LCD画面表示、スイッチ操作、および設定できる機能について説明しています。
また、各設定の初期状態および設定中の異常表示について一覧表で示しています。
データベース設定を開始する前にお読みください。

2. データベース設定の開始

データベース設定の開始方法について説明しています。
データベース設定を開始する際にお読みください。

3. 設定方法

各機能の設定方法について説明しています。
各機能を設定する際にお読みください。

4. データベース設定の終了

データベース設定の終了方法について説明しています。
データベース設定を終了する際にお読みください。

5. よくあるご質問(Q & A)

お問い合わせの多いご質問をまとめてあります。


はじめに

警告表示について




警告表示は、警告文と警告レベルを表す記号の組合せで表示されます。

■ 警告文

危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをした場合に生じるおそれがある内容を、「危険」、「警告」、「注意」、の3つに区分しています。




	危険	取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負うか、防災機能に致命的な悪影響を及ぼすおそれがあることを示しています。
	警告	取り扱いを誤った場合、使用者が重傷や傷害を負うか、防災機能の一部に重大な悪影響を及ぼすおそれがあることを示しています。
	注意	取り扱いを誤った場合、使用者が傷害を負うか、防災機能に悪影響を及ぼすおそれがあることを示しています。また、防災機能を長期にわたって有効に活用する上で、ぜひ守ってほしい事項について示しています。

■ 記号

	危険・警告・注意を促す内容があることを示しています。
	禁止内容を示しています。
	行為を強制したり、指示したりする内容を示しています。

本文中のマークについて

本文中のマークについて以下に説明します。

操作	操作箇所を示しています。
 Point	火災受信機をお使いになる上で、知っておきたいことを示しています。
 Caution	火災受信機をお使いになる上で、注意していただきたいことを示しています。
	火災受信機で点滅する箇所を示しています。

はじめに

本文中の表記について

本文中の表記について以下に説明します。

・本書では、説明内容に応じて以下のように製品を表記しています。

受信機／連動操作盤	表記		
	総称	シリーズ	タイプ
P型1級火災受信機(FAPJ106N シリーズ)	本機または 受信機	106Nシリーズ	FAPJ
P型1級複合火災受信機(FCSJ106N シリーズ)			FCSJ
GP型1級ガスもれ火災受信機 (FAPGJ106N シリーズ)			FAPGJ
GP型1級ガスもれ複合火災受信機 (FCSGJ106N シリーズ)			FCSGJ
P型1級(自動試験機能付)火災受信機 (FAPJ106S シリーズ)		106Sシリーズ	FAPJ
P型1級(自動試験機能付)複合火災受信機 (FCSJ106S シリーズ)			FCSJ
GP型1級(自動試験機能付)ガスもれ火災受信機 (FAPGJ106S シリーズ)			FAPGJ
GP型1級(自動試験機能付)ガスもれ複合火災受 信機(FCSGJ106S シリーズ)			FCSGJ
連動操作盤(SAPJ006)		006シリーズ	SAPJ
G型ガスもれ受信機(AAPJ006)			AAPJ

・本書では、以下のように関連機器およびマニュアルを表記しています。

関連機器、マニュアル	表記
『FAPJ/FCSJ106・107シリーズ、FAPGJ/FCSGJ106シリーズ、AAPJ/SAPJ006 シリーズ、FCPJ203シリーズ DBTOOL』	『DBTOOL』
『P型1級火災受信機／複合火災受信機FAPJ/FCSJ106Nシリーズ、GP型1級ガスも れ火災受信機／ガスもれ複合火災受信機FAPGJ/FCSGJ106Nシリーズ 取扱説明 書』(TN52076)、『P型1級(自動試験機能付)火災受信機／複合火災受信機FAPJ/ FCSJ106Sシリーズ、GP型1級(自動試験機能付)ガスもれ火災受信機／ガスもれ複 合火災受信機FAPGJ/FCSGJ106Sシリーズ 取扱説明書』(TN52073)、『連動操 作盤SAPJ006 取扱説明書』(TN52080)、『G型ガスもれ受信機AAPJ006 取 扱説明書』(TN52083)	『取扱説明書』
『火災受信機／複合火災受信機FAPJ/FCSJ106Nシリーズ、ガスもれ火災受信機／ガス もれ複合火災受信機FAPGJ/FCSGJ106Nシリーズ 施工説明書』(TN52077)、『火災 受信機／複合火災受信機FAPJ/FCSJ106Sシリーズ、ガスもれ火災受信機／ガスもれ複 合火災受信機FAPGJ/FCSGJ106Sシリーズ 施工説明書』(TN52074)、『連動操 作盤SAPJ006シリーズ 施工説明書』(TN52081)、『G型ガスもれ受信機AAPJ006シ リーズ 施工説明書』(TN52084)	『施工説明書』
『火災受信機／複合火災受信機かんたんガイド(FAPJ/FCSJ106N/Sシリーズ)』 (TN52075)、『ガスもれ火災受信機／ガスもれ複合火災受信機かんたんガイド(FAPGJ/ FCSGJ106N/Sシリーズ)』(TN52078)、『連動操作盤かんたんガイド(SAPJ006 シリーズ)』(TN52082)、『G型ガスもれ受信機かんたんガイド(AAPJ006シリーズ)』 (TN52085)	『かんたんガイド』

安全上のご注意

ここに示した注意事項は、製品を安全にお使いいただき、お客様やほかの人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。

ご使用になる前に、「安全上のご注意」をよくお読みの上、本機を正しくお使いください。



警告

設定作業は、必ず物件を担当する自動火災報知設備に関わる有資格者(消防設備士甲種四類の資格を有する人)が実施してください。



強制・指示

- ・ 正しく設定しないと、本機が正常に動作しない場合があります。

予備電源の接続は、+、-を絶対に間違わないように接続してください。

- ・ 間違えた場合、予備電源を発熱・破裂させる原因になります。



注意



注意

設定中は、火災検出などの本機本来の動作はしません。

データベース設定終了後は「[4 データベース設定の終了](#)」(p.93)の方法で終了処理をしてください。

- ・ 終了処理をしないと正常な監視状態になりませんのでご注意ください。



強制・指示

本機を作動させる前に、本機のジャンパーピンが正しく設定されていることを確認してください。

- ・ 設定に誤りがあると、本機および付属設備の各装置を壊すおそれがあります。

防排煙連動の場合、1回線の連動において端末機器(防火戸など)を動作させる電源容量は、DC24V、2A以下になるようにしてください。

- ・ 電源容量を超える場合、本機を壊すおそれがあります。

設定中または書き込み中に電源を切らないでください。

- ・ 設定データを壊すおそれがあります。

1 データベース設定にあたって

受信機の表示、スイッチ操作、および設定できる機能について説明します。
また、各設定の初期状態および設定中の異常表示について説明します。

1-1 受信機の表示とスイッチ操作について

ここでは本機の表示とデータベース設定で使用するスイッチについて説明します。
スイッチカバーを開くと、以下のスイッチ操作部が現れます。

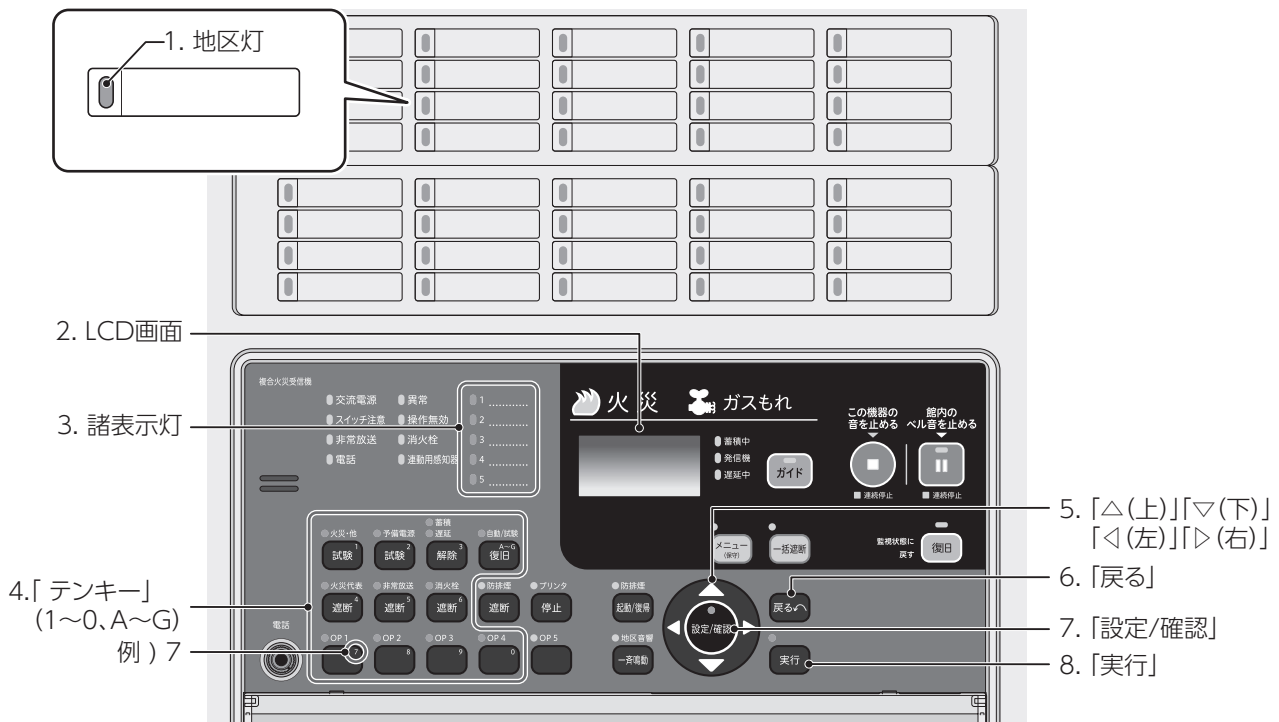


注意



強制・指示

スイッチカバーは、操作後必ず閉じてください。
引っかけたけがをしたり誤操作の原因となります。



1 地区灯

回線に関する設定を行う場合に、点滅、点灯します。

2 LCD画面

LCD画面に各種設定項目が表示されます。

3 諸表示灯

諸表示に関する設定を行う場合に、点滅、点灯します。

4 「テンキー」スイッチ

P-ATオプションメッセージ設定時に、数字またはアルファベットを入力するために使用します。

5 「△(上)」「▽(下)」「◀(左)」「▶(右)」スイッチ
設定項目や設定内容を切り替えます。

6 「戻る」スイッチ

画面をひとつ前に戻すときや、終了操作などに使用します。
ただし、「実行」スイッチを押さずにLCD画面表示の表示項目を戻した場合、設定した内容は本機に反映されません。

7 「設定/確認」スイッチ

選択した項目や回線などを、設定対象として決定します。

8 「実行」スイッチ

設定した内容を確認し、本機の内蔵メモリに書き込みを行います。設定内容を入力、変更すると、「実行」スイッチ灯が点滅します。「実行」スイッチを押したあと1～5秒ほど高速点滅し、内蔵メモリへの書き込みが完了すると消灯します。

1 データベース設定にあたって

1-2 設定項目一覧

本機の設定項目を以下に示します。



設定できない項目がある場合は、その設定項目は表示されず、次に設定可能な項目が表示されます。

○：設定可 －：設定不可

設定項目	設定内容	106Nシリーズ				106Sシリーズ				SA PJ	AA PJ
		FA PJ	FC SJ	FA PGJ	FC SGJ	FA PJ	FC SJ	FA PGJ	FC SGJ		
00.異常一覧	異常発生時に異常内容を表示します。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
01.防排煙復帰 回線	防排煙回線を防排煙復帰回線に設定します。	-	○	-	○	-	○	-	○	○	-
02.設備区分 (L/DA)	回線ごとに設備区分を設定します。 ・火災回線(L)の場合、「火災」または「諸警報」の どちらか ・防排煙回線(L/DA)の場合、「火災」、「防排煙」、 「諸警報」のいずれか	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
03.音響/ 音声	防排煙/諸警 報(L/DA)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	諸表示入力 (LX)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	消火栓入力 (HL/HV)	○	○	○	○	○	○	○	○	-	-
	蓄積音響(L)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
	遅延音響 (GL)	-	-	○	○	-	-	○	○	-	○
04.P-AT回線 設定	回線ごとに接続するP-AT感知器に合わせて 「進PIV」「進P/II/III」のいずれかに設定します。	-	-	-	-	○	○	○	○	-	-
05.終端設定	<106N> [10kΩ][20kΩ][CRE]のいずれかに設定しま す。	○	○	○	○	-	-	-	-	○	-
	<106S> [10kΩ][終端感知器][終端器]のいずれかに設 定します。	-	-	-	-	○	○	○	○	-	-
06.空き回 線	火災/防排 煙回線(L)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
	ガスもれ 回線(GL)	-	-	○	○	-	-	○	○	-	○
	地区音響 (BKF,F,K)	-	-	-	-	○	○	○	○	-	-
07.OPスイッチ 用途	オプションスイッチ1～21の用途を「遮断ス イッチ」、「ノンロックスイッチ」、または「ロックス イッチ」に設定します。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

設定項目	設定内容	106Nシリーズ				106Sシリーズ				SA PJ	AA PJ
		FA PJ	FC SJ	FA PGJ	FC SGJ	FA PJ	FC SJ	FA PGJ	FC SGJ		
08.連動設定	自動連動設定	地区音響(ベル)、非常放送、地区窓表示機の使用用途に合わせた連動をF6以降のFに設定します。	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	連動要因設定	連動先(地区別移報(F)、防排煙起動(D)など)を選択し、連動要因(「火災/防排煙回線(L)」、「防排煙応答(DA)」など)を設定(または解除)します。	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	連動設定	連動要因(「火災/防排煙回線(L)」、「防排煙応答(DA)」など)を選択し、連動先(地区別移報(F)、防排煙起動(D)など)を設定(または解除)します。	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	AND連動設定	二つの連動要因を組み合わせ、連動先を設定します。	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	消火栓連動設定	消火栓(H/HC端子)の連動要因を設定します。	○	○	○	○	○	○	○	○	-
09.表示機設定	地区窓表示機設定	地区窓表示機音響の鳴動要因および音響出力端子を設定します。	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	メッセージ表示機設定	メッセージ表示機の通信および表示機出力を設定します。	○	○	○	○	○	○	○	○	○
10.遮断スイッチ	移報先の遮断スイッチを設定します。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
11.逐次/拡大鳴動時間	地区音響の逐次鳴動時間および拡大警報時間を設定します。	○	○	○	○	○	○	○	○	-	
12.蓄積解除回線設定	火災/防排煙回線(L)の蓄積機能を解除します。	○	○	○	○	○	○	○	○	-	
13.遅延解除回線	ガスもれ回線(GL)の遅延機能を解除します。	-	-	○	○	-	-	○	○	-	
14.回線・端末文字情報 ^{*2}	受信機で扱う各種文字情報の確認と初期化が行えます。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
15.P-ATオプションメッセージ ^{*3}	P-AT感知器に対応するオプションメッセージを設定します。	-	-	-	-	○	○	○	○	-	
16.防排煙順次起動	防排煙順次起動時の同時制御回線数、応答故障時間、回線設定を設定します。	-	○	-	○	-	○	-	○	○	
17.防排煙一括起動 ^{*4}	防排煙一括起動の回線を設定します。	-	○	-	○	-	○	-	○	○	
18.自動試験日時	自動試験の開始日時を設定します。	-	-	-	-	○	○	○	○	-	
19.HOST設定	受信機とゲートウェイなどの外部機器との通信を設定します。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
20.非常放送終端EB±	非常放送回路の断線・短絡を監視するかどうかを設定します。	○	○	○	○	○	○	○	○	-	
21.スイッチ操作音	各スイッチを押したときに、操作音を鳴らすかどうかを設定します。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
22.諸警報保持	一度検出した諸警報(L/DA)、諸表示入力(LX)、消火栓入力(HL/HV)の信号がOFFしても、受信機の警報状態を継続したい場合に設定します。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
23.ガスもれ保持	ガスもれ検知器からのガスもれ信号が消失しても、復旧操作を行うまでガスもれ状態を保持するかどうかを設定します。	-	-	○	○	-	-	○	○	-	
24.初期化	データベースを初期状態に戻すことができます。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

1 データベース設定にあたって

設定項目	設定内容	106Nシリーズ				106Sシリーズ				SA PJ	AA PJ
		FA PJ	FC SJ	FA PGJ	FC SGJ	FA PJ	FC SJ	FA PGJ	FC SGJ		
25.SDカード	SDカードを使用して、データベース設定のデータを受信機へダウンロード、または受信機からアップロードしたり、履歴を保存することができます。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
26.説明書(二次元コード)	本機の説明書などを紹介しているWebページにリンクされた二次元コードを表示します。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
27.DB設定終了	データベース設定モードを終了します。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○



Point

- ※1：BCU基板は標準盤にはありません。
- ※2：接続端末の種別名称、状態文字、移報先、オプションメッセージの確認が可能です。文字情報の設定はDBTOOLでのみ可能です。
- ※3：数字とアルファベット(A～G)が設定可能です。その他文字はDBTOOLでのみ設定可能です。
- ※4：特盤用の機能です。標準盤には本設定はありません。
- ※5：標準盤には「復旧」スイッチがないため、ガスもれ保持設定にしないでください。



Caution

- ・ 防排煙回線(L/DA)を火災、諸警報として使用する場合、D出力は使用できません。
- ・ 本機は、ROU基板(F21～)、SOU基板(S1～)、BCU基板(K1～)、OPSW基板(OP6～21)の有/無設定はありません。

1 データベース設定にあたって

1-3 初期状態一覧

各設定項目の初期状態について、以下に示します。

設定項目	初期状態	
01.防排煙復帰回線	なし	
02.設備区分(L/DA)	火災(L)回線：火災 防排煙(L/DA)回線：防排煙	
03.音響/音声	全回線が音響・音声鳴動要因	
04.P-AT回線設定	全回線が進PIV	
05.終端設定	全回線が10kΩ	
06.空き回線	火災/防排煙回線(L)	全回線が使用回線
	ガスもれ(GL)	全回線が使用回線
	地区音響(BKF,F,K)	・BKC-BKF：使用 ・F6～F25：空き ・K01～K20：使用 (K(BCU基板)：標準盤にはありません)
07.OPスイッチ用途	・OP1～5：遮断スイッチ ・OP6～21：ロックスイッチ	
08.連動設定	連動要因設定 連動設定	・火災代表(ステータス要因)の移報先がF1～F5 ^{※1} ・防排煙回線のLの連動先が防排煙Dに1対1で対応 (例)20回線の場合、L11～L20の連動先がD11～D20に1対1で設定されている。
	AND連動設定	なし
	消火栓連動設定	発信機入力(A 入力)：連動あり その他：連動なし
09.表示機設定	地区窓表示機設定	・部屋番号表示機の接続台数：使用しない ・全回線が鳴動要因 ・表示機音響出力端子が未設定
	メッセージ表示機設定	接続台数：使用しない
10.遮断スイッチ	オプションスイッチ1～5が移報先のF1～F5に1対1で対応 ^{※2}	
11.逐次/拡大鳴動時間	逐次鳴動時間：3分 拡大警報時間：4分	
12.蓄積解除回線設定	全回線が蓄積あり(蓄積解除なし)	
13.遅延解除回線設定	全回線が遅延あり(遅延解除なし)	
14.回線・端末文字情報	各回線の設備区分に合わせたデフォルト文字情報を設定 (例)防排煙回線の場合、「端末装置 作動」	
15.P-ATオプションメッセージ	文字情報なし	
16.防排煙順次起動	回線数：02 起動：30秒 復帰：1分 全回線対象外	
17.防排煙一括起動 ^{※3}	全回線対象外	
18.自動試験日時	月曜日の午前10時	
19.HOST設定	通信速度：38400bps 異常検出：なし	
20.非常放送終端器EB±	終端器なし(監視なし)	
21.スイッチ操作音	スイッチ操作音あり	
22.諸警報保持	全回線が非保持	
23.ガスもれ保持	非保持	

※1：移報先のF1～F5に個別移報を設定する場合には、ステータス要因の火災代表を解除してから設定してください。

※2：地区別移報F1～F5を遮断しない場合や遮断スイッチを変えたい場合は、遮断スイッチ設定を解除してから、必要に応じて設定してください。

※3：特盤用の機能です。標準盤には本設定はありません。

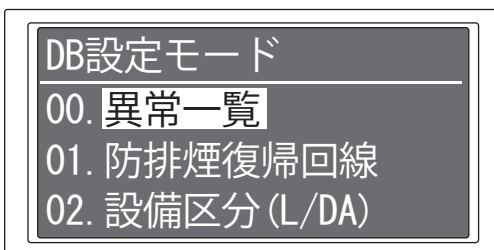
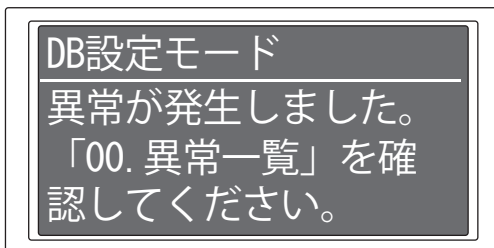
1 データベース設定にあたって

1-4 異常表示一覧

データベース設定中に本機に異常が表示された場合は、以下を参照して異常内容を確認してください。なお、データベース設定中は、異常が発生しても異常灯は点滅しません。また、異常音も鳴動しません。

異常項目	異常内容
DB異常	・データベース設定で機種設定の誤り ・データベースの書込不良 ・データの破損
伝送異常スレーブ異常	・MCU基板とFLU/SLU/ROU/SOU/GLU/BCU基板間の伝送異常 ・最大回線設定の誤り ・存在しない端子の連動が設定されている
伝送異常PSU異常	MCU基板とPSU基板間の伝送異常
伝送異常LPU	・MCU基板とLPU基板間の伝送異常 ・最大回線設定の誤り
メモリ異常	MCU基板上のメインCPU内蔵RTC、外部ROMの異常

異常が発生した場合、LCD画面に異常が発生したことを表示します。



操作

1

「設定/確認」スイッチ、または「戻る」スイッチを押すと元の画面に戻ります。

2

メニューから「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して、[00.異常一覧]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

異常の内容が確認できます。



[00.異常一覧]は、異常発生時のみメニュー表示されます。

異常発生中は、画面タイトル行に[異常発生中]と10秒ごとに表示されます。

2 データベース設定の開始

データベース設定の開始方法について説明します。

以下の方法からデータベース設定を開始することが可能です。

- ・通常モードからデータベース設定モードに切り替える場合
- ・電源未投入状態からデータベース設定モードに入る場合



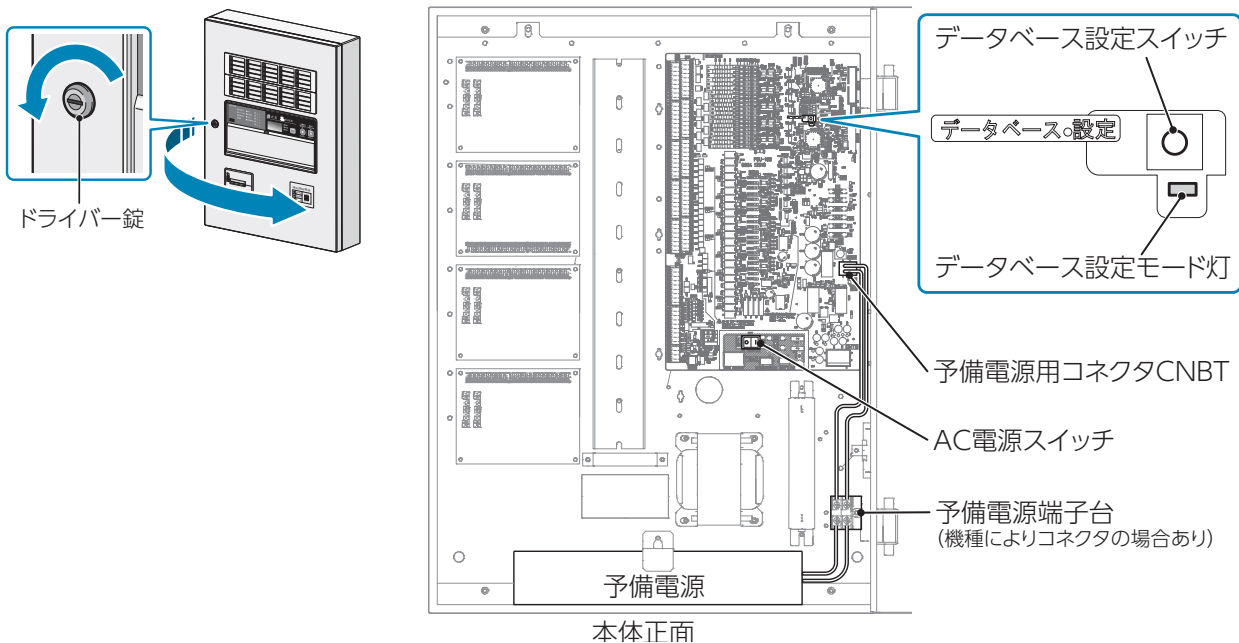
Point

データベース設定開始後、本機が以下の状態であることを確認してください。

- ・「交流電源」灯の点灯
- ・「スイッチ注意」灯の点滅
- ・「異常」灯の点灯
- ・LCD画面タイトル行に「DB設定モード」と表示
- ・「設定/確認」スイッチ灯の点滅

はじめに、ドライバー錠を90度左に回し扉を開きます。

下図はFCSJ40LTタイプの場合の例です。



通常モードからデータベース設定モードに切り替える場合

操作

1

「データベース設定」スイッチを2秒長押しします。

ピー音が鳴り、「実行」スイッチ灯が点滅します。LCD画面に確認画面が表示されます。

2

「実行」スイッチを押します。

ピー音が鳴り、「データベース設定」スイッチ灯が点灯します。

データベース設定モードになります。



Point

火災発生時、各種試験操作中、メニュー操作中はデータベース設定モードへは入れません。各種試験中、メニュー操作中の場合は、終了操作を行ってからデータベース設定モードに入ってください。

2 データベース設定の開始

受信機を再起動してデータベース設定モードに入る場合

操作

- 1 本機内部の予備電源用コネクタCNBT(機種により予備電源側のコネクタでも可)をはずします。
- 2 AC電源スイッチを切ります。
- 3 「データベース設定」スイッチを押しながら、AC電源スイッチを入れます。
「データベース設定」スイッチは、「データベース設定」スイッチ下部のデータベース設定モード灯(赤)が点灯し、ピー音が鳴るまで押し続けてください(約3秒)。
データベース設定モードになります。

3 設定方法

各機能の設定方法について説明します。

なお、以降の説明では、『2 データベース設定の開始』(p.14)の操作が完了し、本機がデータベース設定モードになっていることを前提としています。

3-1 防排煙復帰回線設定 [01.防排煙復帰回線]

防排煙回線を防排煙復帰回線に設定します。

初期状態では、復帰回線は設定されていません。

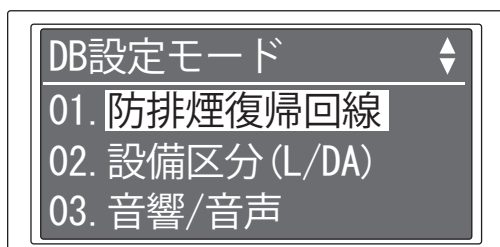
設定項目	設定内容	記載先
自動設定(回線数指定)	必要な復帰回線数を指定して設定します。 復帰回線は後ろ詰めで設定されます。	P.17
自由設定	1組ずつ起動回線、復帰回線のペアを設定します。 復帰回線を防排煙回線内で自由に設定できます。	P.18



Point

防排煙の復帰制御を行う場合、復帰付防排煙1端末につき2回線(起動1回線、復帰1回線)使用します。
本設定を行うと、該当する回線の設備区分が「防排煙起動(DD)」と「防排煙復帰(DR)」に設定されます。

防排煙復帰回線設定の共通操作



操作 1

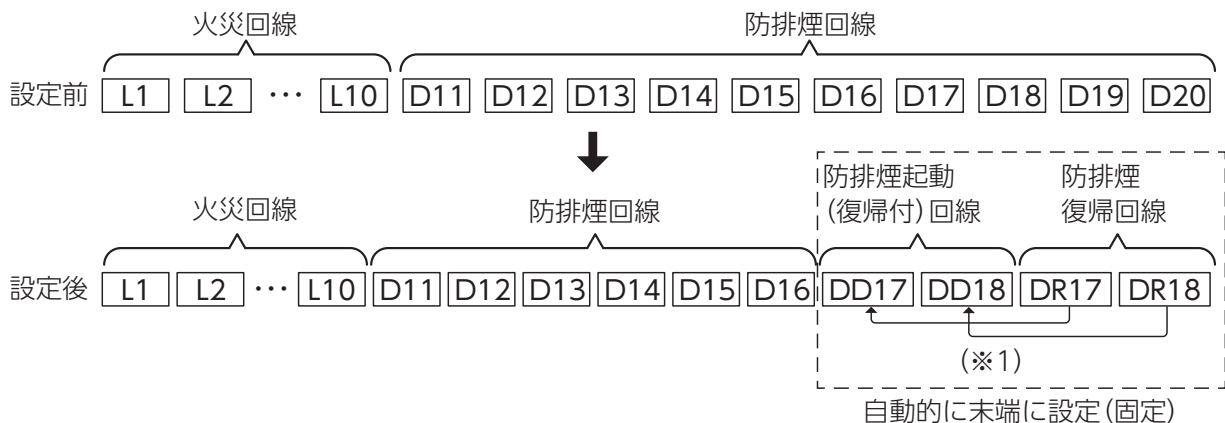
メニューから「△(上)」 「▽(下)」スイッチを押して [01.防排煙復帰回線] を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

3 設定方法

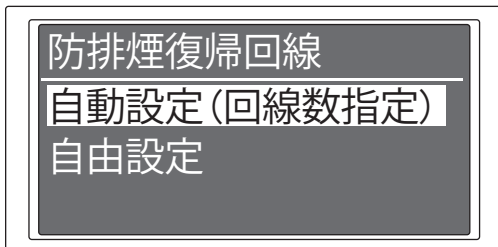
3-1-1 自動設定(回線数指定)

本設定では、復帰に必要な回線数を指定することで、防排煙回線の末端から順に「防排煙復帰回線(DR)」が自動で設定されます。また、防排煙復帰回線(DR)の直前の防排煙回線が、防排煙復帰回線と同じ数だけ「防排煙起動(復帰付)回線(DD)」になります。

なお、防排煙復帰回線と防排煙起動(復帰付)回線はそれぞれの先頭回線から順にペアになっています。20回線(火災回線(L)：10回線、防排煙(D)：10回線)の受信機で、防排煙復帰回線の設定数を「2」に設定する手順を例に示します。



※1：「DR17」で復帰できる回線は「DD17」、「DR18」で復帰できる回線は「DD18」です。「DR17」および「DR18」は復帰専用回線となるため、本回線は信号入力(DA入力)としては使用できません。このため、「DR17」および「DR18」の地区窓には、復帰用として使用している旨を記載してください。



操作

2

共通操作(P.16)を行った後に、「△(上)」 「▽(下)」スイッチを押して[自動設定(回線数指定)]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

3

「△(上)」 「▽(下)」 「◀(左)」 「▶(右)」 スwitchを押して復帰回線数を選択します。

起動回線、復帰回線の回線番号が表示されます。

図は017、018回線が起動回線、019、020回線が復帰回線の状態です。

実行スイッチが点滅します。

4

「実行」スイッチを押します。

設定完了です。

3 設定方法

3-1-2 自由設定

本設定では、1組ずつ防排煙起動回線 (DD) と防排煙復帰回線 (DR) のペアを設定することで、任意の起動回線と復帰回線を自由に設定できます。

■ ペアを設定するには

20回線(火災回線(L)：10回線、防排煙(D)：10回線)の受信機で、起動回線(D)：011、復帰回線(DR)：012に設定する手順を例に示します。



操作 2

共通操作(P.16)を行った後に、「△(上)」 「▽(下)」スイッチを押して[自由設定]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

3

「△(上)」 「▽(下)」 「◀(左)」 「▶(右)」 スwitchを押して、起動回線に設定したい回線番号を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

起動回線の回線番号が選択状態(反転)になり、地区灯が点灯します。

カーソルが隣の回線に移動し、復帰回線選択に移ります。

4

「△(上)」 「▽(下)」 「◀(左)」 「▶(右)」 スwitchを押して、復帰回線に設定したい回線番号を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

復帰回線の回線番号が選択状態(反転)になり、地区灯が点灯します。

「実行」スイッチ灯が点滅します。

画面下部にあるD(起動回線)とDR(復帰回線)の番号が正しいことも確認します。ペア選択完了です。

各回線の液晶表示	地区灯	表示の意味
012	点灯	選択済み
	点滅	カーソル選択中
012	消灯	未選択
012	—	復帰回線に設定済み

注) 選択済みの地区灯は点灯します。

3 設定方法



5 「実行」スイッチを押します。

設定完了です。

復帰回線に設定された回線は、回線番号に下線が表示されます。カーソルが起動回線に戻り、次のペア設定開始状態(操作3状態)となります。



Point

- ・既に復帰回線に設定されている回線はカーソルがスキップされます(選択不可)。
- ・設備区分が火災、諸警報の回線はカーソルがスキップされます(選択不可)。
- ・画面下部にあるD(起動回線)とDR(復帰回線)で、どの回線同士がペアになっているか確認できます。

■ ペアを解除するには

起動回線(D)：011と復帰回線(DR)：012を解除する手順を例に示します。



操作

2

共通操作(P.16)を行った後に、「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して[自由設定]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

3

「△(上)」「▽(下)」「◀(左)」「▶(右)」スイッチを押して、ペアを解除したい起動回線を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

起動回線の回線番号が選択状態(反転)になり、地区灯が点灯します。

カーソルがペア設定されている復帰回線に移ります。

4

「設定/確認」スイッチを押します。

復帰回線の下線表示が消え、画面下部のDR(復帰回線)が「なし」になります。

「実行」スイッチ灯が点滅します。

5

「実行」スイッチを押します。

解除完了です。



Point

操作4で復帰回線の選択解除した後に、別の回線を選択することで、復帰回線を変更することができます。

(例)操作4の操作後、カーソルを013に移動し、「設定/確認」スイッチを押して、「実行」スイッチを押すと、D(起動回線)：011とDR(復帰回線)：013のペア設定に変更できます。

3 設定方法

3-2 設備区分設定:火災/防排煙回線L/DA[02.設備区分(L/DA)]

回線ごとに設備区分を設定します。

- ・ 火災回線(L)の場合、「火災」または「諸警報」のどちらか
- ・ 防排煙回線(L/DA)の場合、「火災」、「防排煙」、「諸警報」のいずれか

初期状態では、以下のように設定されています。

受信機	初期状態		回線内訳											
	回線	設備区分	5 回線 型	10 回線 型	15 回線 型	20 回線 型	30 回線 型	40 回線 型	50 回線 型	60 回線 型	70 回線 型	80 回線 型	90 回線 型	100 回線 型
FAPJ タイプ	L	火災	—	10	15	20	30	40	50	60	—	—	—	—
FCSJ タイプ	L	火災	—	5	5	10	10	20	20	30	30	40	40	50
	L/DA	防排煙	—	5	10	10	20	20	30	30	40	40	50	50
FCSGJ タイプ	L	火災	—	—	5	—	10	10	20	—	—	—	—	—
	L/DA	防排煙	—	—	5	—	10	20	20	—	—	—	—	—
	G	ガスもれ	—	—	5	—	10	10	10	—	—	—	—	—
SAPJ タイプ	L/DA	防排煙	—	10	—	20	30	—	—	—	—	—	—	—
AAPJ タイプ	G	ガスもれ	5	10	15	20	30	—	—	—	—	—	—	—

—：該当なし

3 設定方法

設備区分と本機の動作については、以下を参照してください。

回線	設備区分	本機の動作											
		音響	音声 ^{*1}	火災代表灯	ガスもれ代表灯	連動用感知器灯	LCD画面表示	火災代表信号	火災確認信号	地区音響一斉鳴動端子 (BKC-BKF)	地区音響逐次・拡大警報	断線監視	
火災回線 (L)	火災	ピー	火災	○	×	×	○	○	○	○	○	○/×	
	諸警報	ブー/×	端末/×	×	×	×	○/× ^{*2}	×	×	×	×	×	
防排煙回線 (L/DA)	火災	ピー	火災	○	×	×	○	○	○	○	○	○/×	
	防排煙	連動用感知器 (L)	ブー ^{*3}	連動用感知器 /×	×	×	○	○	×	×	×	×	○/×
		防排煙 (DA)	ブー/×	端末/×	×	×	×	○/× ^{*2}	×	×	×	×	×
諸警報	ブー/×	端末/×	×	×	×	○/× ^{*2}	×	×	×	×	×	×	
防排煙回線 (DA)	防排煙 (DA)	ブー/×	端末/×	×	×	×	○/× ^{*2}	×	×	×	×	×	
	諸警報	ブー/×	端末/×	×	×	×	○/× ^{*2}	×	×	×	×	×	
防排煙起動回線 (DD) ^{*4}	防排煙起動	連動用感知器 (L)	ブー ^{*3}	連動用感知器 /×	×	×	○	○	×	×	×	×	○/×
		防排煙 (DA)	ブー/×	端末/×	×	×	×	○/× ^{*2}	×	×	×	×	×
防排煙復帰回線 (DR) ^{*4}	防排煙復帰	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
ガスもれ回線 (GL) ^{*5}	ガスもれ (固定)	ピッピッ ピッ...	ガスもれ	×	○	×	○	×	×	×	×	○/×	
諸表示回線 (LX) ^{*5}	諸警報 (固定)	ブー/×	端末/×	×	×	×	○/× ^{*2}	×	×	×	×	×	

○：動作する ×：動作しない /：データベース設定によって、「/」の前後のどちらかを選択可

※1：以下の音声がかかります。

「火災」の場合：「火災発生、現場を確認してください。」

「端末」の場合：「端末装置が作動しました、現場を確認してください。」

「連動用感知器」の場合：「連動用感知器が発報しました、現場を確認してください。」

「ガスもれ」の場合：「ガスもれ発生、現場を確認してください。」

なお、音響を鳴らさずに、音声のみ流すことはできません。

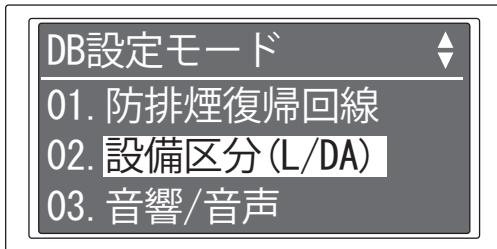
※2：【3-3 音響/音声設定】(p.23)で音響、音声が無に設定されている場合は、LCD表示されません。

※3：連動操作盤SAPJ006 シリーズの場合、「ピー」と鳴ります。

※4：【3-1 防排煙復帰回線設定【01.防排煙復帰回線】】(p.16)によって防排煙復帰回線を設定した場合、設備区分(防排煙)は起動回線側が「防排煙起動DD」、復帰回線側は「防排煙復帰DR」に設定されます(本設定では設備区分の変更はできません)。

※5：ガスもれ回線(GL)の設備区分「ガスもれ」および諸表示回線(LX)の設備区分「諸警報」は変更できません。

3 設定方法



操作 1

メニューから「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して[02.設備区分(L/DA)]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

説明画面が表示されるため、表示内容を確認し、「設定/確認」スイッチを押します。

2

「△(上)」「▽(下)」スイッチで設定したい回線を選択し、「◀(左)」「▶(右)」スイッチで設備区分を選択します。

「実行」スイッチが点滅します。

必要な回線すべてを設定します。

設備区分については、以下を参照してください。

設備区分	設定可能な回線
火災	火災回線(L)、防排煙回線(L/DA)
諸警報	(L/DA)
防排煙	防排煙回線(L/DA)

注)DD：防排煙起動、DR：防排煙復帰は変更できません。



Point

設備区分を変更した回線は、以下の設定が初期状態に戻ります。

- ・03.音響/音声設定
- ・04.P-AT回線設定
- ・05.終端設定
- ・06.空き回線設定
- ・08.連動設定
- ・09.表示機設定
- ・12.蓄積解除回線設定
- ・14.回線・端末文字情報設定
- ・15.P-ATオプションメッセージ設定^{*1}
- ・16.防排煙順次起動設定
- ・17.防排煙一括起動設定
- ・22.諸警報保持設定

※1：変更前後の設備区分により、P-ATオプションメッセージの初期化範囲が異なります。

3

「実行」スイッチを押します。

設定完了です。

3 設定方法

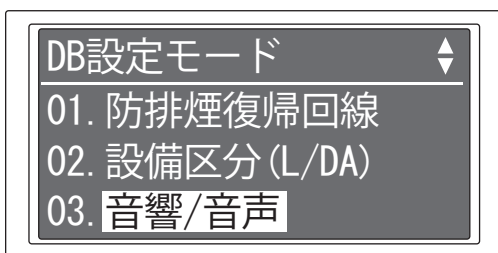
3-3 音響/音声設定[03.音響/音声]

音響/音声設定では、以下の設定が可能です。

初期状態では、すべて鳴動するように設定されています。

設定項目	設定内容	記載先
防排煙/諸警報(L/DA)	設備区分が防排煙(L/DA、DA)、防排煙起動(DD)または諸警報(L、L/DA、DA)の作動時の音響/音声を鳴動させるかどうかを設定します。	P.23
諸表示入力(LX)	作動時の音響/音声を鳴動させるかどうかを設定します。	P.25
消火栓入力(HL/HV)	作動時の音響/音声を鳴動させるかどうかを設定します。	P.26
蓄積音響(L)	火災/防排煙回線(L)の蓄積音響を鳴動させるかどうかを設定します。 音声はありません。	P.26
遅延音響(GL)	ガスもれ回線(GL)の遅延音響を鳴動させるかどうかを設定します。 音声はありません。	P.27

音響/音声設定の共通操作



操作

1

メニューから「△(上)」 「▽(下)」スイッチを押して[03.音響/音声]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

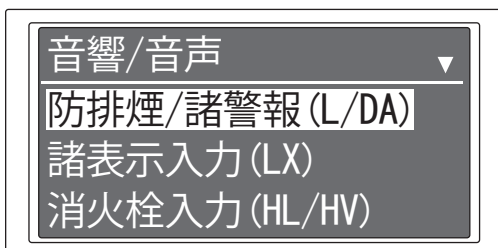
説明画面が表示されるため、表示内容を確認し、「設定/確認」スイッチを押します。



Point

- 受信機の音響を[無]にした回線は、地区窓表示機音響も鳴動しません。[\[3-9 表示機設定\[09.表示機設定\]\]\(p.61\)](#)の鳴動要因設定が自動で無に設定されます。
- 音響を鳴らさずに、音声のみ流すことはできません。
- 防排煙/諸警報(L/DA)、諸表示入力(LX)で受信機音響を[無]に設定した回線は、イベント発生時にLCD画面の表示がされません。

3-3-1 防排煙/諸警報(L/DA)

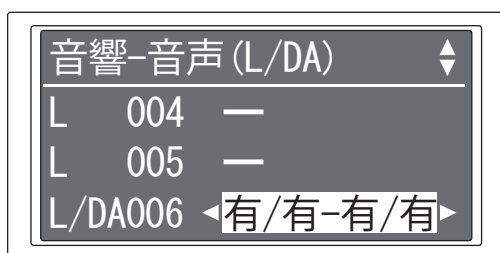


操作

2

共通操作([P.23](#))を行った後に、「△(上)」 「▽(下)」スイッチを押して、[防排煙/諸警報(L/DA)]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

3 設定方法



3 「△(上)」 「▽(下)」スイッチを押して回線を選択し、「◀(左)」 「▶(右)」スイッチを押して、設定項目を選択します。

「実行」スイッチが点滅します。
地区灯は音響が鳴動する場合は点灯、鳴動しない場合は消灯します。^{※1}
必要な回線すべてを設定します。
設定項目については、以下を参照してください。

回線	設備区分	設定項目	解説
L	火災	[—] ^{※1}	
	諸警報	[有-有]、[有-無]、[無-無] ^{※3}	"Lの音響"—"Lの音声"
L/DA	火災	[—] ^{※1}	
	防排煙	[有/有-有/有]、[有/有-有/無]、 [有/有-無/有]、[有/有-無/無]、 [有/無-有/無] ^{※4} 、[有/無-無/無] ^{※4}	"Lの音響"/"DAの音響"—"Lの音声"/"DAの音声"
	諸警報	[有-有]、[有-無]、[無-無] ^{※3}	"L、DA両方の音響"—"L、DA両方の音声" ^{※2}
DA	防排煙	[有-有]、[有-無]、[無-無] ^{※3}	"DAの音響"—"DAの音声"
	諸警報	[有-有]、[有-無]、[無-無] ^{※3}	"DAの音響"—"DAの音声"

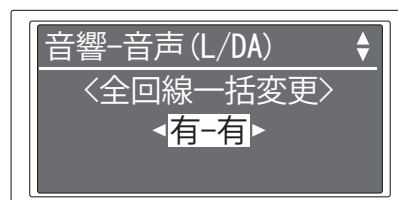
- ※1：設備区分が火災の場合は、音響:有、音声:有となり、変更できません。
また、地区灯は消灯状態となります。
- ※2：音響、音声の設定は、L、DA共通です。L：音響有、DA：音響無のような設定はできません。
- ※3：LまたはDAの入力が入った場合にLCD画面の表示がされません。また、表示機音響も[無]に自動設定されます。
- ※4：DA入力が入った場合にLCD画面の表示がされません(L入力が入った場合はLCD画面が表示されます)。
また、表示機音響も[無]に自動設定されます。

4 「実行」スイッチを押します。
設定完了です。



Point

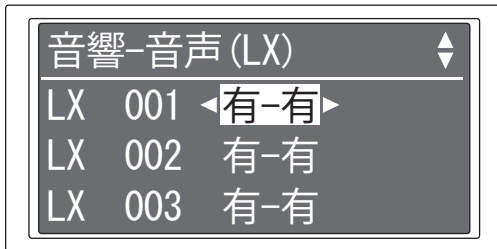
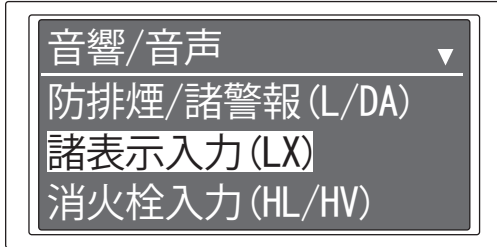
すべての回線の設定項目を一括で設定することができます。
[全回線一括変更]は最後の回線の次に存在します。



設定項目	防排煙の設定内容	解説
[有-有]	[有/有-有/有]	"Lの音響[有]/DAの音響[有]" — "Lの音声[有]/DAの音声[有]"
[有-無]	[有/有-無/無]	"Lの音響[有]/DAの音響[有]" — "Lの音声[無]/DAの音声[無]"
[無-無]	[有/無-無/無]	"Lの音響[有]/DAの音響[無]" — "Lの音声[無]/DAの音声[無]"

3 設定方法

3-3-2 諸表示入力(LX)



操作

2

共通操作(P.23)を行った後に、「△(上)」
「▽(下)」スイッチを押して、[諸表示入力
(LX)]を選択し、「設定/確認」スイッチを押し
ます。

3

「△(上)」
「▽(下)」スイッチを押して回線
を選択し、「◀(左)」
「▶(右)」スイッチを
押して、設定項目を選択します。

「実行」スイッチが点滅します。
諸表示灯は音響が鳴動する場合は点灯、
鳴動しない場合は消灯します。
必要な回線すべてを設定します。
設定項目については、以下を参照してくだ
さい。

設定項目	解説
[有-有]、[無-無] ^{※1} 、[有-無]	"LXの音響" - "LXの音声"

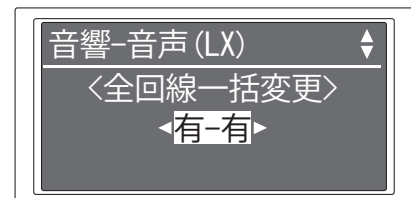
※1：LX入力が入った場合にLCD画面の表示がされ
ません。また、表示機音響も[無]に自動設定さ
れます。

4

「実行」スイッチを押します。
設定完了です。

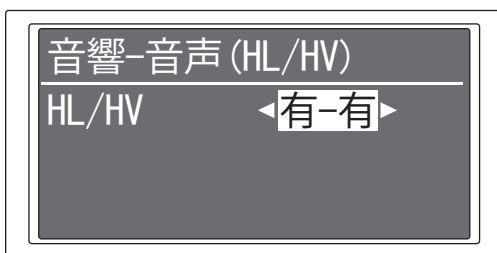
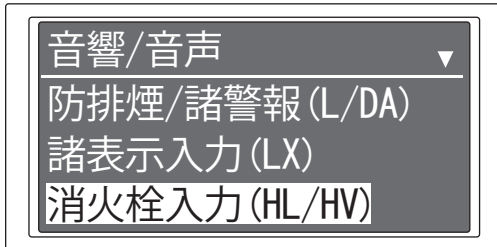


すべての回線の設定項目を一括で設定することができます。
[全回線一括変更]は最後の回線の次に存在します。



3 設定方法

3-3-3 消火栓入力(HL/HV)



操作 2

共通操作(P.23)を行った後に、「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して、「消火栓入力(HL/HV)」を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

3

「◀(左)」「▶(右)」スイッチを押して、設定項目を選択します。

「実行」スイッチが点滅します。
消火栓灯は音響が鳴動する場合は点灯、鳴動しない場合は消灯します。
設定項目については、以下を参照してください。

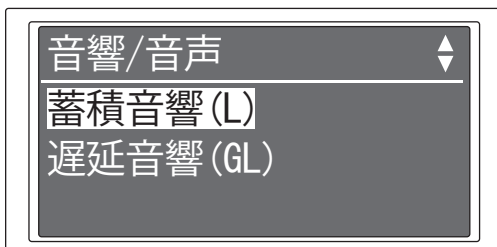
設定項目	解説
[有-有]、[無-無] ^{※1} 、[有-無]	"HL/HVの音響"- "HL/HVの音声"

※1：HL/HV入力が入った場合にLCD画面の表示がされません。また、表示機音響も[無]に自動設定されます。

4

「実行」スイッチを押します。
設定完了です。

3-3-4 蓄積音響(L)



操作 2

共通操作(P.23)を行った後に、「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して、「蓄積音響(L)」を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

3 設定方法



3 「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して回線を選択し、「◀(左)」「▶(右)」スイッチを押して、設定項目を選択します。

「実行」スイッチが点滅します。
地区灯は音響が鳴動する場合は点灯、鳴動しない場合は消灯します。
必要な回線すべてを設定します。
設定項目については、以下を参照してください。

設定項目	解説
[有]、[無]、[-] ^{※1}	Lの音響のみ

※1：設備区分が諸警報の場合、選択できません。

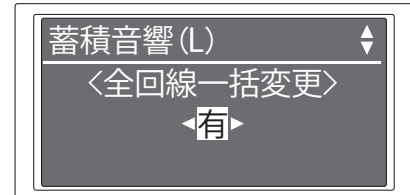
4 「実行」スイッチを押します。

設定完了です。

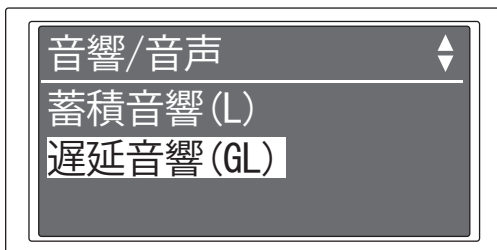


Point

すべての回線の設定項目を一括で設定することができます。
[全回線一括変更]は最後の回線の次に存在します。



3-3-5 遅延音響(GL)



操作
2

共通操作(P.23)を行った後に、「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して、「遅延音響(GL)」を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

3 設定方法

遅延音響 (GL)		
GL	001	◀有▶
GL	002	有
GL	003	有

3 「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して回線を選択し、「◀(左)」「▶(右)」スイッチを押して、設定項目を選択します。

「実行」スイッチが点滅します。
地区灯は音響が鳴動する場合は点灯、鳴動しない場合は消灯します。
必要な回線すべてを設定します。
設定項目については、以下を参照してください。

設定項目	解説
[有],[無]	GLの音響のみ

4 「実行」スイッチを押します。
設定完了です。



Point

すべての回線の設定項目を一括で設定することができます。
[全回線一括変更]は最後の回線の次に存在します。

遅延音響 (GL)		
◀全回線一括変更▶		
◀有▶		

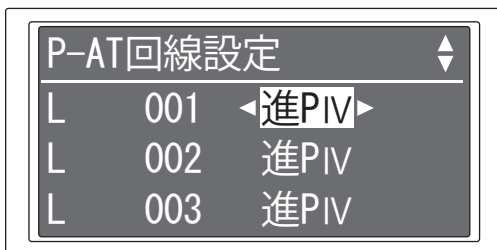
3 設定方法

3-4 P-AT回線設定[04.P-AT回線設定]

回線ごとに接続するP-AT感知器に合わせて[進PIV][進P/II/III]のいずれかを設定します。
初期状態では、すべての回線が「進PIV」に設定されています。



- ・ 進PIV感知器を接続する場合、一般感知器を接続する場合、進PIV感知器と一般感知器を混在させる場合は、[進PIV]に設定します。
- ・ 進P/II/III感知器いずれかを1つ以上接続する場合は、一般感知器や進PIV感知器の混在に関係無く[進P/II/III]に設定します。
- ・ [進PIV]に設定した回線に進P/II/III感知器を接続した場合、「P-AT回線設定異常」を発します。



操作

1 メニューから「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して[04.P-AT回線設定]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

2 「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して回線を選択し、「◀(左)」「▶(右)」スイッチを押して、設定項目を選択します。

「実行」スイッチが点滅します。
必要な回線すべてを設定します。
設定項目については、以下を参照してください。

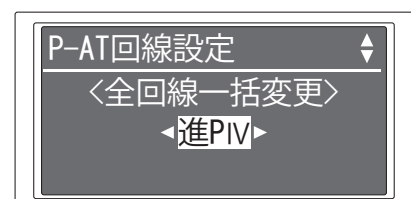
接続感知器	設定項目
進PIV	進PIV
進P、進PII、進PIII	進P/II/III

注)一般感知器はどちらの設定であっても接続可能です。

3 「実行」スイッチを押します。
設定完了です。



すべての回線の設定項目を一括で設定することができます。
[全回線一括変更]は最後の回線の次に存在します。



3 設定方法

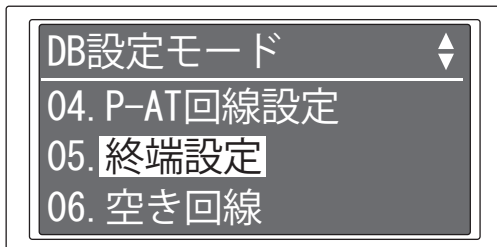
3-5 終端設定 [05.終端設定]

回線の終端方法を設定します。

106Nシリーズと106Sシリーズで設定方法が異なります。

シリーズ	設定内容	記載先
106Nシリーズ	20回線ごとに終端方法を[10kΩ][20kΩ][CRE]のいずれかに設定します。 初期状態では、すべての回線が10kΩに設定されています。	P.30
106Sシリーズ	回線ごとに終端方法を[10kΩ][終端感知器][終端器]のいずれかに設定します。 初期状態では、すべての回線が10kΩに設定されています。	P.31

終端設定の共通操作



操作

1 メニューから「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して[05.終端設定]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

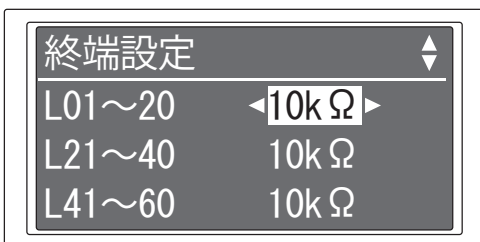
3-5-1 106Nシリーズの場合



Point

以下のように、20回線ごとに終端方法を設定します。

- ・ L01～L20 (PSU基板)
- ・ L21～L40 (FLU基板)
- ・ L41～L60 (FLU基板)
- ・



操作

2

終端設定の共通操作 ([P.30](#)) を行った後に、「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して、回線を選択し、「◀(左)」「▶(右)」スイッチを押して設定項目を選択します。

「実行」スイッチが点滅します。
必要な回線すべてを設定します。
設定項目については、以下を参照してください。

終端の種類	設定項目
終端抵抗(10kΩ、1/2W)	10kΩ
終端抵抗(20kΩ、1/2W)	20kΩ
コンデンサ式終端器(CRE)	CRE

3 設定方法

- 3 「実行」スイッチを押します。
設定完了です。

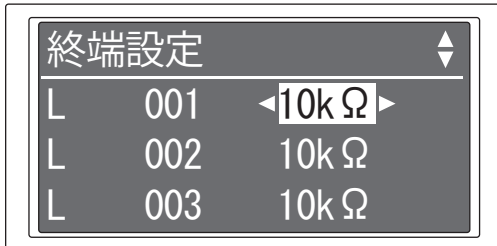
3-5-2 106Sシリーズの場合



Point

『3-15 オプションメッセージ設定[15.P-ATオプションメッセージ]』(p.79)でアドレス31以降にP-ATオプションメッセージを設定している場合、以下の変更によりP-ATオプションメッセージが削除されます。

- ・ [終端感知器][終端器]→[10kΩ]に変更した場合
アドレス31～60のP-ATオプションメッセージを削除
- ・ [終端感知器]→[終端器]に変更した場合
アドレス60のP-ATオプションメッセージを削除



操作 2

終端設定の共通操作 (P.30) を行った後に、「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して、回線を選択し、「◀(左)」「▶(右)」スイッチを押して設定項目を選択します。

「実行」スイッチが点滅します。
必要な回線すべてを設定します。
設定項目については、以下を参照してください。

感知器のアドレス数	終端の種類	設定項目
～30	終端抵抗(10kΩ、1/2W)	10kΩ
～60	終端感知器	終端感知器
～59	アドレス付終端器 ^{※1}	終端器

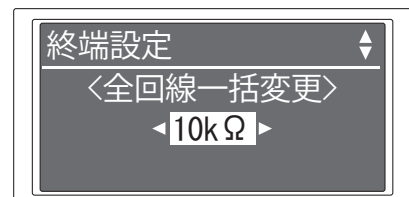
※1：回線の末端が一般型感知器や発信機の場合に、アドレス付終端器を接続します。

- 3 「実行」スイッチを押します。
設定完了です。



Point

すべての回線の設定項目を一括で設定することができます。
[全回線一括変更]は最後の回線の次に存在します。



3 設定方法

3-6 空き回線設定 [06.空き回線]

空き回線設定では、以下の設定が可能です。

設定項目	設定内容	記載先
火災/防排煙回線(L)設定	自動設定	感知器や発信機を接続しない場合に断線監視を停止するかを設定します。 P.33
	手動設定	
ガスもれ回線(GL)設定	自動設定	ガスもれ検知器を接続しない場合に断線監視を停止するかを設定します。 P.35
	手動設定	
地区音響(BKF,F,K)設定	PSU基板 (BKC-BKF)	地区音響回線(BKC-BKF,F,K端子)を使用しない場合や、一般ベルを使用する場合に、断線および短絡の監視を停止するかを設定します。 P.37
	PSU基板 (F6-25)	P.38
	BCU基板(K)	P.39

空き回線設定の共通操作



操作

1

メニューから「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して[06.空き回線]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

3-6-1 火災/防排煙回線(L)

感知器や発信機を接続しない火災/防排煙回線(L)を空き回線として設定し、断線の監視を停止します。自動または手動で設定可能です。

初期状態では、すべての火災/防排煙回線(L)が使用回線に設定されています。



空き回線として設定できるのは、設備区分が「火災」、「防排煙」の火災/防排煙回線(L)です。設備区分が「諸警報」の場合は、空き回線として設定できません(「諸警報」の場合は、断線の監視が行われません)。

火災/防排煙回線(L)の共通操作



操作

2

共通操作(P.32)を行った後に、「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して[火災/防排煙(L)]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

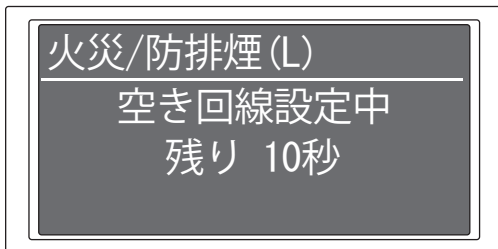
3 設定方法

■ 自動で設定するには

自動設定では配線に接続された終端機器(終端抵抗・終端感知器など)を読み込み、『3-5 終端設定[05. 終端設定]』(p.30)で設定された終端機器(終端抵抗・終端感知器など)が接続がされていない回線を空き回線に設定します。



- ・ 各回線の接続を行ってから自動設定を行ってください。
- ・ 配線を行わずに自動設定を行った場合、その回線は空き回線に設定されます。



操作 3

火災/防排煙回線(L)の共通操作(P.32)を行った後に、「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して、[自動設定]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

説明画面が表示されるため、表示内容を確認し、「設定/確認」スイッチを押します。

「実行」スイッチが点滅します。

4

「実行」スイッチを押します。

設定中画面が表示され、残り時間が表示されます。

地区灯は空き回線に設定された場合は点灯、使用回線に設定された場合は消灯します。

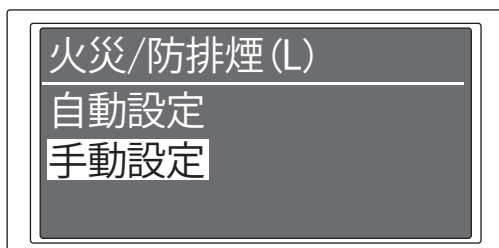
説明画面が表示されるため、表示内容を確認し、「設定/確認」スイッチを押します。

設定完了です。



断線状態で自動設定を行うとその回線は空き回線に設定されます。設定後は必ず地区灯を確認して、空き回線設定が適切に設定されているかを確認してください。

■ 手動で設定するには



操作 3

火災/防排煙回線(L)の共通操作(P.32)を行った後に、「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して、[手動設定]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

3 設定方法



4 「△(上)」 「▽(下)」スイッチを押して回線を選択し、「◀(左)」 「▶(右)」スイッチを押して、設定項目を選択します。

「実行」スイッチが点滅します。
地区灯は空き回線に設定された場合は点灯、使用回線に設定された場合は消灯します。
必要な回線すべてを設定します。
設定項目については、以下を参照してください。

設定項目

[使用]、[空き]

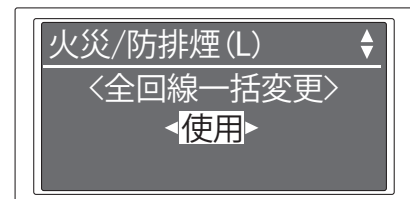
注) 設備区分が諸警報の場合は「-」が表示されます。「-」は選択できません。

5 「実行」スイッチを押します。
設定完了です。



Point

すべての回線の設定項目を一括で設定することができます。
[全回線一括変更]は最後の回線の次に存在します。



3-6-2 ガスもれ回線(GL)

ガスもれ検知器を接続しないガスもれ回線(GL)を空き回線として設定し、断線の監視を停止します。
自動または手動で設定可能です。

初期状態では、すべてのガスもれ回線(GL)が使用回線に設定されています。

ガスもれ回線(GL)の共通操作



操作

2 共通操作(P.32)を行った後に、「△(上)」 「▽(下)」スイッチを押して[ガスもれ回線(GL)]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

3 設定方法

■ 自動で設定するには

自動設定では配線に接続されたガスもれ検知器を読み込み、ガスもれ検知器が接続されていない回線を空き回線に設定します。



- ・ 各回線の接続を行ってから自動設定を行ってください。
- ・ 配線を行わずに自動設定を行った場合、その回線は空き回線に設定されます。

ガスもれ (GL)

自動設定

手動設定

操作

3

ガスもれ回線 (GL) の共通操作 (P.34) を行った後に、「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して、[自動設定] を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

説明画面が表示されるため、表示内容を確認し、「設定/確認」スイッチを押します。「実行」スイッチが点滅します。

4

「実行」スイッチを押します。

設定中画面が表示され、残り時間が表示されます。

地区灯は空き回線に設定された場合は点灯、使用回線に設定された場合は消灯します。

説明画面が表示されるため、表示内容を確認し、「設定/確認」スイッチを押します。

設定完了です。



危険



強制・指示

断線状態で自動設定を行うとその回線は空き回線に設定されます。設定後は必ず地区灯を確認して、空き回線設定が適切に設定されているかを確認してください。

3 設定方法

■ 手動で設定するには



操作 3

ガスもれ回線 (GL) の共通操作 (P.34) を行った後に、「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して、「手動設定」を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

4

「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して回線を選択し、「◀(左)」「▶(右)」スイッチを押して、設定項目を選択します。

「実行」スイッチが点滅します。
地区灯は空き回線に設定された場合は点灯、使用回線に設定された場合は消灯します。
必要な回線すべてを設定します。
設定項目については、以下を参照してください。

設定項目

[使用]、[空き]

5

「実行」スイッチを押します。
設定完了です。



Point

すべての回線の設定項目を一括で設定することができます。
[全回線一括変更]は最後の回線の次に存在します。



3 設定方法

3-6-3 地区音響(BKF,F,K)

地区音響回線(BKC-BKF、F6-25、K 端子)を使用しない場合、または一般ベルを使用する場合に空き回線として設定し、断線および短絡の監視を停止します。ダイオード付ベルを使用する場合は使用回線に設定します。

なお、BCU基板(K)は標準盤にはありません。

初期状態では、「BKC-BKF」、「K」は使用回線、「F6-25」は空き回線に設定されています。

地区音響(BKF,F,K)の共通操作



空き回線
火災 / 防排煙 (L)
ガスもれ (GL)
地区音響 (BKF, F, K)

操作

2

共通操作(P.32)を行った後に、「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して[地区音響(BKF,F,K)]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

■ PSU基板(BKC-BKF)の場合



地区音響 (BKF, F, K)
PSU基板 (BKC-BKF)
PSU基板 (F6-25)
BCU基板 (K)



PSU基板 (BKC-BKF)
BKC-BKF ◀ 空き ▶

操作

3

地区音響(BKF,F,K)の共通操作(P.37)を行った後に、「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して[PSU基板(BKC-BKF)]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

4

「◀(左)」「▶(右)」スイッチを押して、設定項目を選択します。

「実行」スイッチが点滅します。

諸表示1灯は空き回線に設定された場合は点灯、使用回線に設定された場合は消灯します。

設定項目については、以下を参照してください。

設定項目

[使用]、[空き]

5

「実行」スイッチを押します。

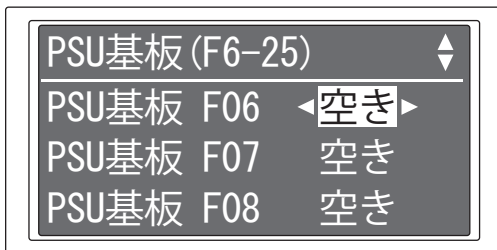
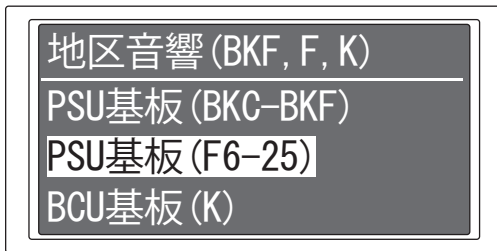
設定完了です。



使用するベルにより、ジャンパーピンの付け替えが必要です。回路図や施工説明書を参照してください。

3 設定方法

■ PSU基板(F6-25)の場合



操作 3

地区音響 (BKF, F, K) の共通操作 (P.37) を行った後に、「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して [PSU基板 (F6-25)] を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

4

「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して回線を選択し、「◀(左)」「▶(右)」スイッチを押して、設定項目を選択します。

「実行」スイッチが点滅します。

地区灯は空き回線に設定された場合は点灯、使用回線に設定された場合は消灯します。

必要な回線すべてを設定します。

設定項目については、以下を参照してください。

設定項目

[使用]、[空き]

5

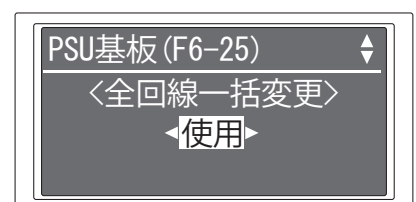
「実行」スイッチを押します。

設定完了です。



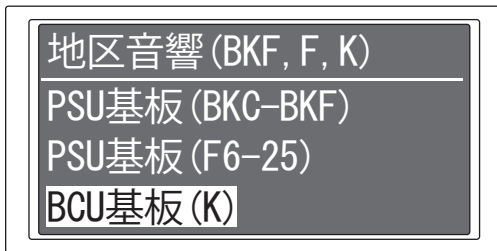
Point

すべての回線の設定項目を一括で設定することができます。
[全回線一括変更]は最後の回線の次に存在します。



3 設定方法

■ BCU基板(K)の場合



操作 3

地区音響(BKF,F,K)の共通操作(P.37)を行った後に、「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して[BCU基板(K)]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

4

「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して回線を選択し、「◀(左)」「▶(右)」スイッチを押して、設定項目を選択します。

「実行」スイッチが点滅します。

地区灯は空き回線に設定された場合は点灯、使用回線に設定された場合は消灯します。

必要な回線すべてを設定します。

設定項目については、以下を参照してください。

設定項目

[使用]、[空き]

5

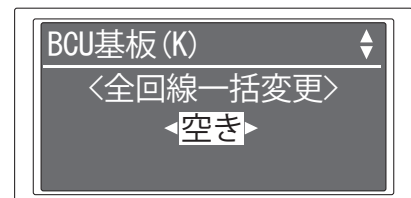
「実行」スイッチを押します。

設定完了です。



Point

- ・ BCU基板(K)は標準盤にはありません。
また、BCU基板(K)の連動設定がされていない回線は、空き回線設定が「使用」に設定されていても異常を検出しません。
例) K01~K10を連動している場合、K11以降は異常を検出しません。
- ・ すべての回線の設定項目を一括で設定することができます。
[全回線一括変更]は最後の回線の次に存在します。

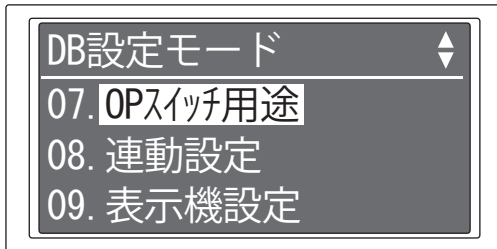


3 設定方法

3-7 OPスイッチ用途設定[07.OPスイッチ用途]

オプションスイッチ1～21の用途を[遮断]スイッチ、[ノンロック]スイッチ、または[ロック]スイッチに設定します。

初期状態では、オプションスイッチ1～5が[遮断]スイッチ、オプションスイッチ6～21が[ロック]スイッチに設定されています。



操作

1

メニューから「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して[07.OPスイッチ用途]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

説明画面が表示されるため、表示内容を確認し、「設定/確認」スイッチを押します。



Point

[遮断]⇔[ロック][ノンロック]の用途変更により、以下の設定が削除されます。

- ・ [遮断]→[ロック][ノンロック]に変更した場合
 - 10.遮断スイッチ
 - 14.回線・端末文字情報
- ・ [ロック][ノンロック]→[遮断]に変更した場合
 - 08.連動設定(連動要因設定、連動設定)
 - 14.回線・端末文字情報
- ・ [ロック]⇔[ノンロック]の用途変更は影響ありません。



2

「△(上)」「▽(下)」スイッチを押してOPスイッチを選択し、「◀(左)」「▶(右)」スイッチで設定項目を選択します。

「実行」スイッチが点滅します。
必要なスイッチすべてを設定します。
設定項目については、以下を参照してください。

設定項目

[遮断]、[ノンロック]、[ロック]

3

「実行」スイッチを押します。

設定完了です。



Point

- ・ 用途を遮断スイッチに設定した場合は、[『3-10 遮断スイッチ設定\[10.遮断スイッチ\]』\(p.71\)](#)で遮断先の設定も行ってください。
- ・ 用途を[ノンロック]スイッチまたは[ロック]スイッチに設定した場合は、[『3-8 各種連動設定\[08.連動設定\]』\(p.41\)](#)で連動先の設定も行ってください。

3 設定方法

3-8 各種連動設定 [08.連動設定]

付属設備の連動設定を行います。

初期状態では、以下のように設定されています。

受信機	初期状態
FAPJ, FCSJ, FAPGJ, FCSGJ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地区別移報F1～F5の連動要因が[火災代表](ステータス要因^{※1})になっています。 ・ 防排煙起動のDn～の連動要因が防排煙回線のLn～と1対1で対応しています。 (例)D11の連動要因がL11に設定されている。
SAPJ	防排煙起動のDn～の連動要因が防排煙回線のLn～と1対1で対応しています。 (例)D11の連動要因がL11に設定されている。
AAPJ	—

—：初期設定なし

※1：ステータス要因については、『[■ステータス要因一覧](#)』(p.51)を参照してください。

連動設定では以下の設定が可能です。

設定項目	設定内容	記載先
自動連動設定	地区音響(ベル)、非常放送、表示機の連動を自動で設定します。	P.41
連動要因設定	連動先に連動要因を設定します。	P.48
連動設定	連動要因に連動先を設定します。	P.53
AND連動設定	2つの連動要因を組み合わせて連動先を設定します。	P.57
消火栓連動設定	消火栓(H/HC 端子)の連動要因を設定します。	P.60

3-8-1 自動連動設定

地区音響(ベル)、非常放送、地区窓表示機の使用用途に合わせた連動をF6以降のFに自動で行います。

地区音響(ベル)、非常放送は、火災回線(L)に対する階情報設定(回線階設定)が必要です。

地区窓表示機は階情報設定(回線階設定)は必要ありません。

<地区音響(ベル)>

各火災回線(L)に階情報を設定することで、階情報に合わせてF6以降のF^{*1}に対する階情報および出火階・直上階の連動設定を自動で行います。

例) 区分鳴動が必要な物件で、L1：地下1階、L2：1階、L3：2階と階情報を設定した場合(地下1階、地上2階の物件)

・ Fへ自動的に階情報を設定 F6：地下1階、F7：1階、F8：2階

・ LとFの階情報をもとに出火階・直上階の連動を自動的に設定

L1(地下1階) → F6(地下1階)、F7(1階) 地下1階、1階の地区音響(ベル)が鳴動

L2(1階) → F6(地下1階)、F7(1階)、F8(2階) 地下1階、1階、2階の地区音響(ベル)が鳴動

L3(2階) → F8(2階) 2階の地区音響(ベル)が鳴動

3 設定方法

<非常放送>

各火災回線(L)に階情報を設定することで、階情報に合わせてF6以降のF*^{※1}に対する階情報および各階への非常放送出力(各階ごとに1出力)の連動設定を自動で行います。

例) 区分鳴動が必要な物件で、L1：地下1階、L2：1階、L3：2階と階情報を設定した場合(地下1階、地上2階の物件)

- ・ Fへ自動的に階情報を設定 F6：地下1階、F7：1階、F8：2階
 - ・ LとFの階情報をもとに非常放送の連動を自動的に設定
- L1(地下1階) → F6(地下1階) 地下1階の非常放送が鳴動
 L2(1階) → F7(1階) 1階の非常放送が鳴動
 L3(2階) → F8(2階) 2階の非常放送が鳴動

<表示機>

各火災回線(L)、防排煙回線(L/DA)、ガスもれ回線(GL)の地区窓表示機への1対1の連動設定、およびステータス要因「表示機音響」の連動設定をF6以降のF*^{※1}に自動で行います。

例) FCSGJ106N 30回線の場合

- ・ L1～10 → F6～15
- ・ DA11～20 → F16～25
- ・ GL1～10 → F26～35
- ・ 表示機音響(ステータス要因) → F36

※1：地区音響(ベル)、非常放送、表示機を複数選択した場合は、F6以降に地区音響(ベル)→非常放送→表示機の順に連動設定されます。各項目はコモンごと(5端子ごと)に区切られます。

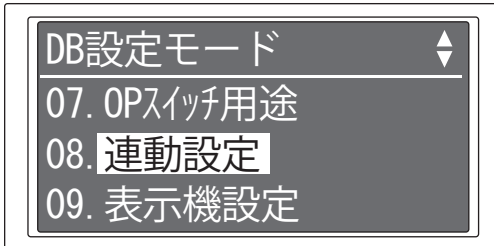
例) FAPJ106S-10LでL1～5：1階、L6～10：2階の設定で、非常放送と表示機を選択した場合

F6 ← L1～5	} 非常放送の連動設定
F7 ← L6～10	
F8 ← 連動なし	} F6～7とコモンが共通のため、 連動設定なし
F9 ← 連動なし	
F10 ← 連動なし	
F11 ← L1	} 表示機の連動設定
F12 ← L2	
...	
F20 ← L10	
F21 ← 表示機音響	

自動連動設定では以下の設定・確認などが可能です。

設定項目	設定内容	記載先
回線階設定	各火災回線(L)への階情報を設定します。	P.43
自動連動設定	階情報を元に連動の自動設定を行います(表示機の自動連動設定は回線階設定は不要です)。	P.45
自動連動結果確認	自動連動設定の連動した結果を確認できます。	P.46
自動連動初期化	自動連動した結果を初期化します。	P.47

自動連動設定の共通操作



操作

1

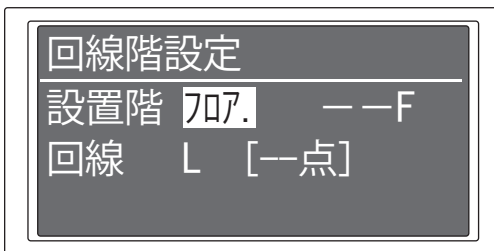
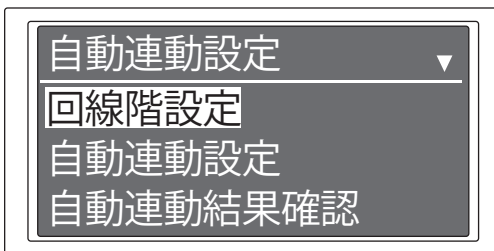
メニューから「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して[08.連動設定]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

2

「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して[自動連動設定]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

説明画面が表示されるため、「△(上)」「▽(下)」スイッチで表示内容を確認し、「設定/確認」スイッチを押します。

■ 回線階設定をするには



操作

3

共通操作(P.43)を行った後に、「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して[回線階設定]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

4

「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して設定項目を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

設定項目については、以下を参照してください。

	設定項目
設置階	[フロア(--F)], [地下(B-F)], [屋上(RF)], [階段(ST)], [エレベータ(EV)], [エスカータ(ES)]



Point

- ・ 設置階に該当する設定項目がない場合、自動連動設定はできません。
- ・ 設置階[地下][707]の場合、操作6で回線階を選択してください。それ以外の場合は、操作6をスキップし、操作7から手順を続けてください。

3 設定方法



①設置階01Fに対して回線がいくつ設定されているかを点数で表しています。今回の場合[00点]は回線が設定されていない事を表しています。



設置階に指定できるのは地下1～5階、フロア1～20階の範囲内です。それ以外がある場合は自動連動設定できません。



5 「△(上)」 「▽(下)」 スイッチを押して設定項目を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

設定項目については、以下を参照してください。

設置階	設定範囲
地下	1～5
フロア	1～20

6 「△(上)」 「▽(下)」 「◀(左)」 「▶(右)」 スイッチを押して設置階を設定する回線を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

「実行」スイッチ灯が点滅し、地区灯が点灯します。

必要な回線すべてを設定します。

各連動先の番号の液晶表示	地区灯	表示の意味
点灯	点灯	選択済み (設定あり)
点滅	点滅	カーソル選択中
消灯	消灯	未選択 (設定なし)
下線 ^{※1}	—	すでに他の階が設定済み

注) 設備区分が火災の回線のみ選択可能です。

※1：選択し、実行することで設定を上書きします。

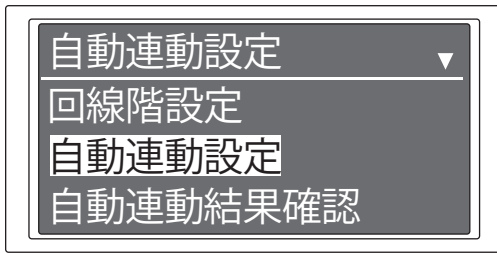
7 「実行」スイッチを押します。

設定完了です。

操作4から操作7を繰り返し、すべての階に対して回線設定を行ってください。

3 設定方法

■ 自動連動設定をするには



操作 3

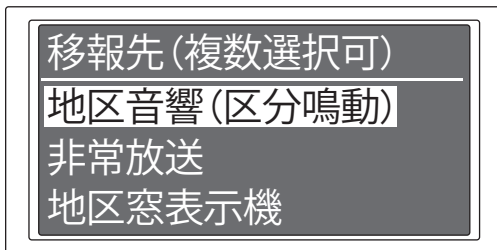
共通操作(P.43)を行った後に、「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して[自動連動設定]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。説明画面が表示されるため、「△(上)」「▽(下)」スイッチで表示内容を確認し、「設定/確認」スイッチを押します。



Caution

自動連動設定を実行すると、はじめにF6以降のFに関するすべての設定内容*¹を削除し、その後、選択した移報先(地区音響、非常放送、表示機)に合わせた連動設定を自動で行います。あらかじめ連動設定などを行っていた場合は、それらの設定は削除されるため、注意してください。

- ※1：・08.連動設定(連動データ、回線階情報)
・10.遮断スイッチ
・14.回線・端末文字情報(移報先、オプションメッセージ)



4

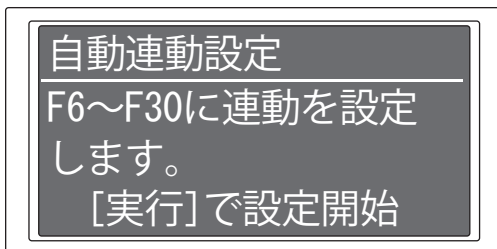
「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して設定項目を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

複数選択可能:選択中は点滅表示され、選択済みは点灯表示されます。

「実行」スイッチ灯が点滅します。

設定項目については、以下を参照してください。

	設定項目
移報先	地区音響(区分鳴動) 非常放送 地区窓表示機



5

「実行」スイッチを押します。

設定完了です。



Point

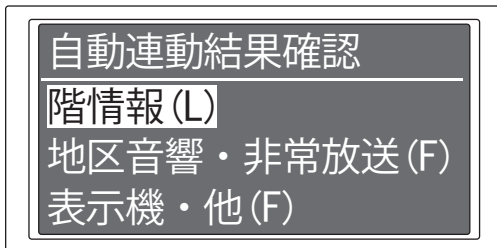
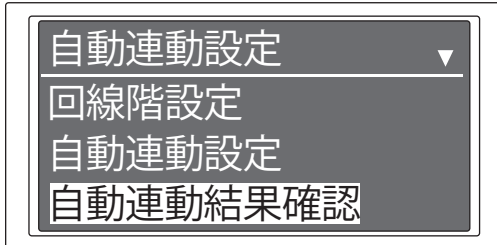
上記画面例では、F6~F30に設定を行なっています。[F30]箇所は自動連動設定の結果で表示内容が変わります。

3 設定方法

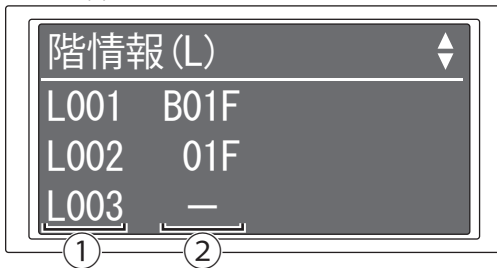
■ 自動連動結果を確認するには



自動連動設定した結果を必ず確認してください。自動連動結果を元にF端子に接続してください。

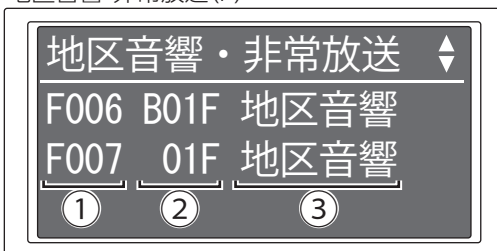


階情報(L)



①回線 ②階情報

地区音響・非常放送(F)



①端子名称 ②階情報 ③移報先

操作
3

共通操作(P.43)を行った後に、「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して[自動連動結果確認]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

4

「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して設定項目を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

5

「△(上)」「▽(下)」スイッチを押してページを送り、設定内容を確認してください。

表示機・他(F)



①端子名称 ②連動要因 ③移報先

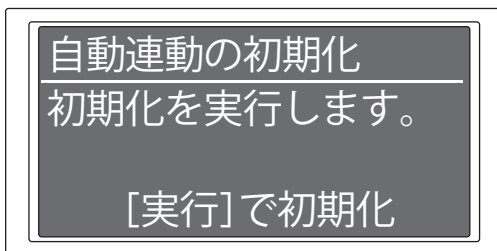
3 設定方法

■ 自動連動を初期化するには



自動連動の初期化を行うと、F6以降のFに関するすべての設定内容^{*1}を削除します。あらかじめ連動設定などを行っていた場合は、それらの設定も削除されるため、注意してください。

- ※1：・08.連動設定(自動連動設定の回線階設定、連動要因設定、連動設定、AND連動設定)
・10.遮断スイッチ
・14.回線・端末文字情報(移報先、オプションメッセージ)



操作

3

共通操作(P.43)を行った後に、「△(上)」
「▽(下)」スイッチを押して[自動連動の
初期化]を選択し、「設定/確認」スイッチを
押します。

説明画面が表示されるため、「△(上)」
「▽(下)」スイッチで表示内容を確認し、
「設定/確認」スイッチを押します。

「実行」スイッチが点滅します。

4

「実行」スイッチを押します。

LCD画面に「初期化が完了しました」と表
示されると設定完了です。

3 設定方法

3-8-2 連動要因設定

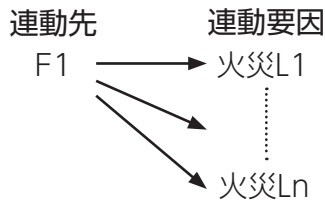
連動先(地区別移報(F)、防排煙起動(D) など)を選択し、連動要因(「火災/防排煙回線(L)」、「防排煙応答(DA)」など)を設定(または解除)する場合の手順を説明します。



火災代表信号を移報する場合、火災回線(L)を全回線で個々に連動要因設定するより、火災代表のステータス要因1点を連動要因設定するほうが設定作業が少なくなります。

(例)

個別連動要因の設定



ステータス要因の設定



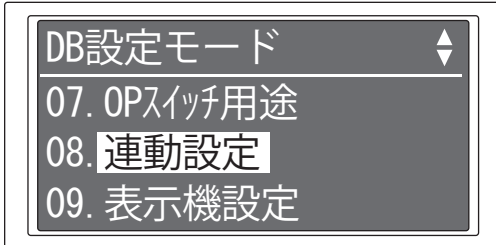
- ・ 1つの連動要因に対して、連動先は最大32点まで設定することができます。
- ・ Fn移報のうちF6～F25端子は地区音響区分鳴動として使用できます。
- ・ F6～F25端子を地区音響区分鳴動として使用する場合は、連動要因を「火災/防排煙回線(L)」に設定してください。
- ・ 個別スイッチ(DA)は特盤で盤面に専用スイッチを追加した場合に、そのスイッチで移報接点(F、S)や防排煙(D、DR)を連動する場合に設定します。標準盤では設定しません。

連動要因設定では、以下の連動要因が設定可能です。

連動要因	記載先	連動要因	記載先
L(火災/防排煙回線) ^{※1}	P.50	HL/HV(消火栓) ^{※1}	P.50
DA(防排煙応答) ^{※1}	P.50	OPスイッチ ^{※1}	P.50
GL(ガスもれ回線) ^{※1}	P.50	St(ステータス要因)	P.51
LX(諸表示入力) ^{※1}	P.50		

※1：操作方法が共通しているため、L(火災/防排煙回線)を代表に説明を記載しています。

連動要因設定の共通操作



操作

1

メニューから「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して[08.連動設定]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

2

「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して[連動要因設定]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

3

「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して設定項目を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

設定項目については、以下を参照してください。

	設定項目
連動先	[F] (地区別移報)
	[D] (防排煙起動/復帰)
	[K] (地区音響区分鳴動)
	[S] (P型インターフェイス盤の外移報出力)



防排煙復帰回線 (DR) は[D] (防排煙起動/復帰)に含まれます。



4

「△(上)」「▽(下)」「◀(左)」「▶(右)」スイッチを押して連動先の番号を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

3 設定方法

■ 連動要因を[L(火災/防排煙回線)]にするには

ここでは、連動要因をL(火災/防排煙回線)に設定する方法を記載しています。GL(ガスもれ回線)、DA(防排煙応答、個別スイッチ)、LX(諸表示入力)、HL/HV(消火栓)、OPスイッチも同様の操作で設定頂けます。



操作 5

共通操作(P.49)を行った後に、「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して[L]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

設定項目については、以下を参照してください。

	設定項目
連動要因	[L](火災/防排煙回線)
	[DA](防排煙応答)
	[GL](ガスもれ回線)
	[LX](諸表示入力)
	[HL/HV](消火栓)
	OPスイッチ
	[St](ステータス要因)



Point

- ・ 連動先が[K](地区音響区分鳴動)の場合、連動要因は[L](火災)のみ設定可能です。
- ・ 連動先が[D](防排煙復帰)の場合、連動要因はOPスイッチ、個別スイッチ(DA)のみ設定可能です。



6

「△(上)」「▽(下)」「◀(左)」「▶(右)」スイッチを押して回線を選択し^{※1}、「設定確認」スイッチを押します。

※1：HL/HVの場合は回線選択は不要です。「実行」スイッチ灯が点滅し、地区灯が点灯します。

必要な回線すべてを設定します。

各回線の液晶表示	地区灯	表示の意味
点灯	点灯	選択済み (設定あり)
点滅	点滅	カーソル 選択中
消灯	消灯	未選択 (設定なし)

3 設定方法

7 「実行」スイッチを押します。

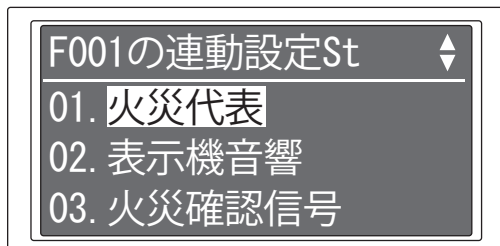
設定完了です。

なお、同じ連動先で異なる設備区分を連動要因に設定する場合は操作5から操作7を行ってください。



- ・ 連動要因がOPスイッチの場合、地区灯の代わりにオプションスイッチ灯が表示します。
- ・ 連動要因がHL/HVの場合、地区灯の代わりに消火栓灯が表示します。
- ・ 連動要因がLXの場合、地区灯の代わりに諸表示灯が表示します。

■ 連動要因を[St(ステータス要因)]にするには



操作

5

共通操作(P.49)を行った後に、「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して[St]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

6

「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して設定項目を選択し「設定/確認」スイッチを押します。

「実行」スイッチ灯が点滅します。

設定項目については、下記の『[■ ステータス要因一覧](#)』(p.51)を参照ください。

7

「実行」スイッチを押します。

設定完了です。

■ ステータス要因一覧

ステータス要因	説明
01.火災代表	火災発生時に出力します。設備区分「火災」回線の発報時で連動用感知器の発報は含みません。
02.表示機音響	地区窓表示機/部屋番号表示機の音響端子への移報用です。表示機音響設定を有にした回線の入力時に出力します(保守音響停止中は出力されません)。
03.火災確認信号	感知器第2報発報、発信機作動時に出力します。
04.連動用感知器代表	3種回線の感知器発報時に出力します。
05.防排煙応答代表	防排煙応答入力がある場合に出力します。
06.諸警報代表	諸警報設定の入力がある場合に出力します。
07.ガスもれ代表	ガスもれ発生時に出力します。
08.警報音代表	受信機の警報音が鳴動する要因発生時に出力します(音響および地区音響停止中でも出力します。蓄積、電話呼出音、音響無し設定のもの、保守地区音響停止中音響は含みません)。

3 設定方法

09.異常代表	異常灯の点滅時に出力します。交流電源断(AC100Vが断した場合)は含みません。平常時はa接側が閉じています。
10.スイッチ注意	スイッチ操作時に出力します(スイッチ注意灯の点滅時)。
11.遮断中代表	個別遮断中、一括遮断中に出力します(遮断設定のオプションSWも含む)。
12.試験中代表	試験スイッチ操作中に出力します(FAPJ/FCSJ106Sシリーズで定期実行される自動試験の試験中は出力されません)。
13.主電源断(停電)	AC100Vが断した場合(停電時)に出力されます。平常時はa接点が閉じています。
14.非常放送中	受信機の非常放送灯点灯中(EB±がON中)に出力します。
15.発信機代表	発信機応答灯制御時に出力します。
16.復旧出力	復旧スイッチ操作時や蓄積復旧時などの復旧処理中に1秒間出力します。
17.地区音響停止中	地区音響停止中に出力します(非常放送入力中の地区音響自動停止は含まれません)。
18.地区音響一斉鳴動	地区音響一斉鳴動時(火災第2報発報、発信機作動、一斉鳴動スイッチ押下、拡大警報タイムアップ時)に出力します(地区音響一時停止中、保守地区音響停止中も出力します)。
19.地区音響鳴動中	地区音響鳴動中に出力します(地区音響一時停止中、保守地区音響停止中は停止します)。



Caution

- ・「異常代表」または「主電源断(停電時)」の移報では、正常時にリレーがオン状態となり、移報先に設定したFnのc-a端子間が導通します。異常時にオン信号が必要な場合は、F4、F5(c接点)のc-b端子間を使用してください。
- ・「異常代表」または「主電源断(停電時)」の移報接点には、他の連動要因(火災代表や地区別移報など)を設定せず、単独の接点としてください(他の連動要因と組み合わせて使うことはできません)。ただし、「異常代表」と「主電源断(停電時)」のみを組み合わせた連動は可能です。その場合、「異常代表」または「主電源断(停電時)」のどちらかの出力要因が発生した場合に、出力(F4、F5の場合、c-b端子間がオン)されます。
- ・「異常代表」または「主電源断(停電時)」を遮断していても、電源OFF(交流電源消灯)になると、「異常代表」や「主電源断」の移報を出力します。
- ・「遮断中代表」を移報する場合、その接点は遮断設定しないでください。

3 設定方法

3-8-3 連動設定

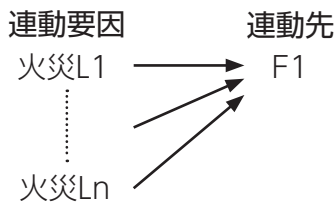
連動要因(「火災/防排煙回線(L)」、「防排煙応答(DA)」など)を選択し、連動先(地区別移報(F)、防排煙起動(D)など)を設定(または解除)する場合の手順を説明します。



火災代表信号を移報する場合、火災回線(L)を全回線で個々に連動設定するより、火災代表のステータス要因1点を連動設定するほうが設定作業が少なくなります。

(例)

個別連動要因の設定



ステータス要因の設定



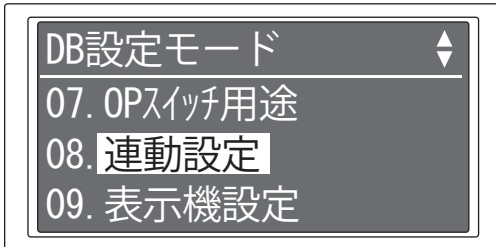
- ・ 1つの連動要因に対して、連動先は最大32点まで設定することができます。
- ・ Fn移報のうちF6～F25端子は地区音響区分鳴動として使用できます。
- ・ F6～F25端子を地区音響区分鳴動として使用する場合は、連動要因を「火災/防排煙回線(L)」に設定してください。
- ・ 個別スイッチ(DA)は特盤で盤面に専用スイッチを追加した場合に、そのスイッチで移報接点(F、S)や防排煙(D、DR)を連動する場合に設定します。標準盤では設定しません。

連動設定では、以下の連動要因が設定可能です。

連動要因	記載先	連動要因	記載先
L(火災/防排煙回線) ^{※1}	P.54	HL/HV(消火栓) ^{※1}	P.54
DA(防排煙応答) ^{※1}	P.54	OPスイッチ ^{※1}	P.54
GL(ガスもれ回線) ^{※1}	P.54	St(ステータス要因)	P.56
LX(諸表示入力) ^{※1}	P.54		

※1：操作方法が共通しているため、L(火災/防排煙回線)を代表に説明を記載しています。

連動設定の共通操作



操作

1

メニューから「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して[08.連動設定]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

2

「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して[連動設定]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

■ 連動要因を[L(火災/防排煙回線)]にするには

ここでは、連動要因をL(火災/防排煙回線)に設定する方法を記載しています。GL(ガスもれ回線)、DA(防排煙応答、個別スイッチ)、LX(諸表示入力)、HL/HV(消火栓)、OPスイッチも同様の操作で設定頂けます。



操作

3

共通操作(P.54)を行った後に、「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して設定項目を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

設定項目については、以下を参照してください。

	設定項目
連動要因	[L](火災/防排煙回線)
	[DA](防排煙応答)
	[GL](ガスもれ回線)
	[LX](諸表示入力)
	[HL/HV](消火栓)
	OPスイッチ
	[St](ステータス要因)

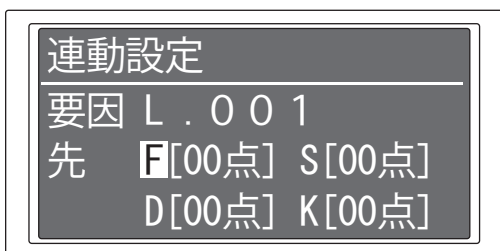


4

「△(上)」「▽(下)」「◀(左)」「▶(右)」スイッチを押して回線を選択し^{*1}、「設定/確認」スイッチを押します。

^{*1}: HL/HVの場合は回線選択は不要です。

3 設定方法



5 「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して設定項目を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

設定項目については、以下を参照してください。

	設定項目
連動先	[F] (地区別移報) [K] (地区音響区分鳴動) [D] (防排煙起動/復帰) [S] (P型インターフェイス盤の外移報出力)



防排煙復帰(DR)は[D](防排煙起動/復帰)に含まれます。



6 「△(上)」「▽(下)」「◀(左)」「▶(右)」スイッチを押して連動先の番号を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

「実行」スイッチ灯が点滅し、地区灯が点灯します。

必要な移報先すべてを設定します。

各回線の液晶表示	地区灯	表示の意味
点灯	点灯	選択済み (設定あり)
点滅	点滅	カーソル選択中
消灯	消灯	未選択 (設定なし)
下線 ^{※1}	—	防排煙復帰回線(DR)

※1：連動先が[D](防排煙復帰)の場合のみ。

7 「実行」スイッチを押します。

設定完了です。

なお、同じ連動要因で異なる連動先を設定する場合は、操作5から操作7を行ってください。

3 設定方法

■ 連動要因を[St(ステータス要因)]にするには



操作 3

共通操作(P.54)を行った後に、「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して[St]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

4

「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して設定項目を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

設定項目については、『■ ステータス要因一覧』(p.51)を参照ください。

5

連動先を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

6

「△(上)」「▽(下)」「◀(左)」「▶(右)」スイッチを押して連動先の番号を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

「実行」スイッチ灯が点滅し、地区灯が点灯します。

必要な移報先すべてを設定します。

各回線の液晶表示	地区灯	表示の意味
点灯 	点灯	選択済み (設定あり)
点滅 	点滅	カーソル 選択中
消灯 	消灯	未選択 (設定なし)

7

「実行」スイッチを押します。

設定完了です。

3 設定方法

3-8-4 AND連動設定

二つの連動要因を組み合わせて、連動先を連動する設定ができます。
初期状態ではAND連動は設定されていません。

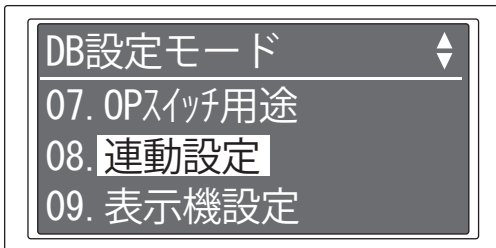


グループとは、二つの連動要因の組み合わせをさします。二つの連動要因が発生したことで、グループの連動先に設定した地区別移報(F)、防排煙起動(D)などを連動します。

AND連動設定では、以下の設定が可能です。

設定項目	設定内容	記載先
AND連動設定	二つの連動要因を組み合わせて、連動先を連動する設定ができます。	P.57
AND連動解除	設定したAND連動を解除します。	P.59

AND連動設定の共通操作



操作

1

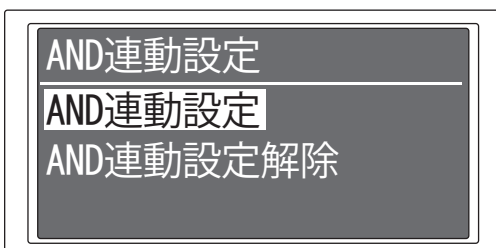
メニューから「△(上)」 「▽(下)」スイッチを押して[08.連動設定]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。



2

「△(上)」 「▽(下)」スイッチを押して[AND連動設定]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

■ AND連動を設定するには



操作

3

共通操作(P.57)を行った後に、「△(上)」 「▽(下)」スイッチを押して[AND連動設定]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

3 設定方法

AND連動設定	
グループ	01 連動要因
①	— . — — —
②	— . — — —

AND連動設定	
グループ	01 連動要因
①	<input type="checkbox"/> . — — —
②	— . — — —



OPスイッチなどのスイッチは連動要因にできません。

AND連動設定	
グループ	01 連動要因
①	L . 0 0 1
②	— . — — —

AND連動設定	
グループ	01 連動要因
①	L . 0 0 1
②	DA . 0 0 6

AND連動-連動先	
グループ	01 連動先
	F[00点] S[00点] D[00点]

4 「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して設定項目を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

設定項目については、以下を参照してください。

設定項目	
グループ	01~99

5 「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して設定項目を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

設定項目については、以下を参照してください。

設定項目	
連動要因	[L](火災/防排煙回線) [DA](防排煙応答) [GL](ガスもれ回線) [LX](諸表示入力) [HL/HV](消火栓) [St](ステータス要因)

6 「△(上)」「▽(下)」「◀(左)」「▶(右)」スイッチを押して回線を選択し^{*1}、「設定/確認」スイッチを押します。

*1：HL/HVの場合は回線選択は不要です。

7 操作5,6を再び行います。

8 「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して設定項目を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

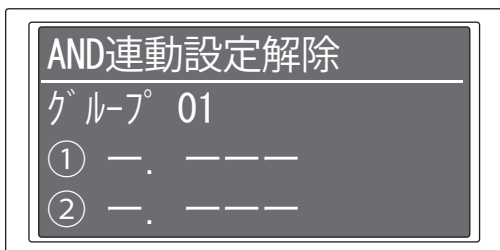
設定項目については、以下を参照してください。

設定項目	
連動先	[F](地区別移報) [D](防排煙起動) [S](P型インターフェイス盤の外移報出力)

3 設定方法



■ AND連動を解除するには



9 「△(上)」 「▽(下)」 「◀(左)」 「▶(右)」 スイッチを押して連動先の番号を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

「実行」スイッチ灯が点滅し、地区灯が点灯します。

必要な連動先すべてを設定します。

各回線の液晶表示		地区灯	表示の意味
点灯	001	点灯	選択済み (設定あり)
点滅	001	点滅	カーソル 選択中
消灯	001	消灯	未選択 (設定なし)

10 「実行」スイッチを押します。

設定完了です。

なお、同じグループで異なる種類の連動先を設定する場合は、操作8から操作10を行ってください。

操作 3

共通操作(P.57)を行った後に、「△(上)」 「▽(下)」スイッチを押して[AND連動設定解除]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

4 「△(上)」 「▽(下)」スイッチを押して解除するグループを選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

連動要因①②の表示が消え、「実行」スイッチ灯が点滅します。

5 「実行」スイッチを押します。

設定完了です。

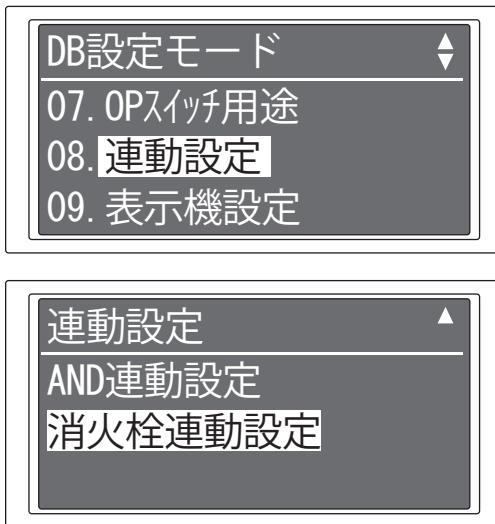
3 設定方法

3-8-5 消火栓連動設定

消火栓(H/HC 端子)の連動要因を設定します。
初期状態では、以下のように設定されています。

連動要因	設定項目
発信機入力(A入力)	[連動あり]
L/DA 回線(設備区分:諸警報、防排煙)	[連動なし]
LX 回線(設備区分:諸警報)	[連動なし]

消火栓連動設定の共通操作



操作

1

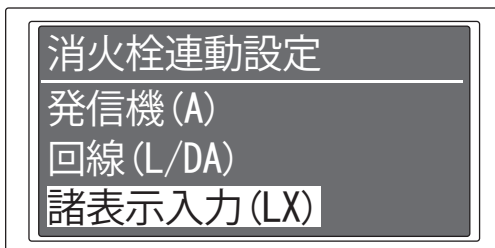
メニューから「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して[08.連動設定]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

2

「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して[消火栓連動設定]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

■ 連動要因を[諸表示入力(LX)]にするには

ここでは、連動要因をLX(諸表示入力)に設定する方法を記載しています。発信機入力(A入力)、L/DA回線(諸警報、防排煙)も同様の操作で設定いただけます。



操作

3

「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して[諸表示入力(LX)]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

設定項目については、以下を参照してください。

	設定項目
	発信機入力(A入力)
連動要因	L/DA 回線 (設備区分:諸警報、防排煙)
	LX 回線(設備区分:諸警報)

3 設定方法

諸表示入力 (LX)		
LX	001	連動なし
LX	002	連動なし
LX	003	◀連動あり▶

4 「△(上)」 「▽(下)」 スイッチを押して回線を選択し^{※1}、「◀(左)」 「▶(右)」 スイッチを押して設定項目を選択します。

※1：[発信機(A)]の場合、回線選択は不要です。

「実行」スイッチ灯が点滅します。
必要な回線すべてを設定します。
設定項目については、以下を参照してください。

設定項目	諸表示灯
連動なし	消灯
連動あり	点灯
カーソル選択中	点滅



Point

- ・ 連動要因がL/DAの場合、諸表示灯の代わりに地区灯が表示されます。
- ・ 連動要因が発信機(A)の場合、地区灯の制御はありません。

5 「実行」スイッチを押します。
設定完了です。



Point

すべての回線の設定項目を一括で設定することができます。
[全回線一括変更]は最後の回線の次に存在します。

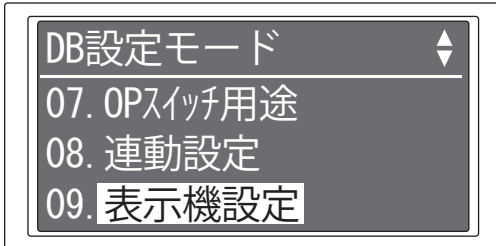
諸表示入力 (LX)		
◀全回線一括変更▶		
		◀連動なし▶

3-9 表示機設定[09.表示機設定]

地区窓表示機またはメッセージ表示機の各種設定を行います。

設定項目	設定内容	記載先
地区窓表示機設定	地区窓表示機の設定を行います。 部屋番号付表示機を接続する場合、部屋番号付表示機設定で通信設定を行う必要があります。	P.62
メッセージ表示機設定	メッセージ表示機の設定を行います。	P.67

表示機設定の共通操作



操作

1

メニューから「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して[09.表示機設定]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

3-9-1 地区窓表示機設定

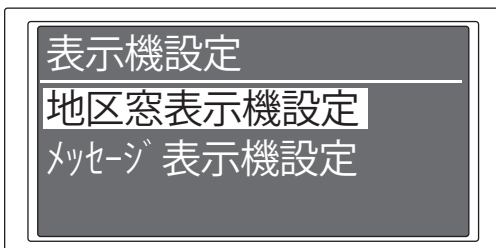
地区窓表示機がある物件の場合は、以下の手順で地区窓表示機の音響(鳴動要因、音響出力端子)および地区窓の連動設定を行います。また、音響設定、地区窓連動設定に関しては、『3-8-1 自動連動設定』(p.41)でも行うことができます。

- ① 表示機の音響用に鳴動要因設定を行います。
- ② 表示機の音響用に表示機音響出力端子(ステータス連動：表示機音響出力が連動設定されます)を設定します。
- ③ 表示機への地区別移報出力の連動を設定します。

注) 部屋番号付表示機を使用する場合は、「部屋番号付表示機設定」で接続台数と通信速度の設定が必要です。

設定項目	設定内容	記載先
部屋番号付表示機設定	部屋番号付表示機を使用する場合に、接続台数と通信速度を設定します。	P.63
音響設定	鳴動要因設定	表示機音響の鳴動要因を設定します。 P.64
	音響出力端子設定	表示機音響の出力端子を設定します。 P.66
地区窓連動設定	表示機への地区窓連動を設定します。 P.67	

地区窓表示機設定の共通操作



操作

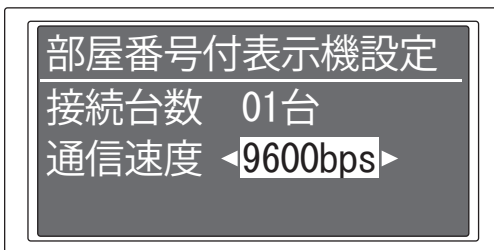
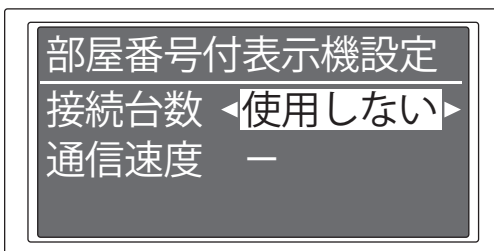
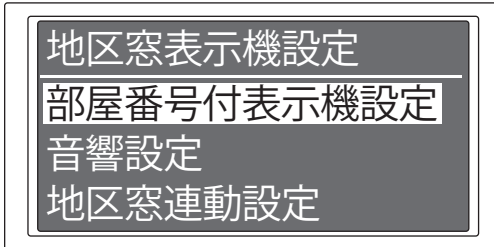
2

表示機設定の共通操作([P.62](#))を行った後に、「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して[地区窓表示機設定]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

3 設定方法

■ 部屋番号付表示機設定をするには

初期状態では、接続台数は「使用しない」（部屋番号付表示機を使用しない）、通信速度は「-」（なし）に設定されています。



操作 3

地区窓表示機設定の共通操作(P.62)を行った後に、「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して[部屋番号表示機設定]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

4

「◀(左)」「▶(右)」スイッチを押して部屋番号付表示機の接続台数を選択します。

通信速度に「9600bps」が表示されます。実行スイッチが点滅します。

5

通信速度の変更が必要な場合は、「▽(下)」スイッチを押してカーソルを通信速度に合わせ、「◀(左)」「▶(右)」スイッチを押して通信速度を選択します。

	設定項目
接続台数	[使用しない]* ¹ 、 [01台]～[15台]
通信速度	[9600bps]、[2400bps]

※1：接続台数が[使用しない]の場合、通信速度は「-」が表示されます。

6

「実行」スイッチを押します。

設定完了です。



- ・ 通常は9600bpsで使用してください。ノイズなどの影響で表示機との伝送が不安定な場合に、2400bpsに変更してください。その場合、部屋番号付表示機側の通信速度も変更してください。変更方法は部屋番号付表示機の施工・取扱説明書を確認してください。
- ・ 部屋番号付表示機とメッセージ表示機の混在はできません。メッセージ表示機を使用する設定にしている場合は、操作3時にメッセージ表示機の設定解除確認画面が表示されますので、「実行」スイッチを押してメッセージ表示機の設定を解除してください。

3 設定方法

■ 鳴動要因設定

初期状態では、すべての回線が表示機音響の鳴動要因に設定されています。



Point

- ・ 鳴動要因には、火災/防排煙回線(L/DA)、ガスもれ(GL)、諸表示回線(LX)および消火栓入力(HL/HV)を設定できます。
- ・ 本機能で鳴動要因を『■ 鳴動要因設定』にて設定したあと、必ず表示機音響出力の移報先を『■ 音響出力端子設定』(p.66)にて設定してください。
- ・ 『3-3 音響/音声設定[03.音響/音声]』(p.23)で、入力時の音響-音声を[無]-[無]にした回線は、鳴動要因設定が[無]に自動設定され、変更できません(表示機音響は鳴動しません)。

地区窓表示機設定
部屋番号付表示機設定
音響設定
地区窓連動設定

音響設定
鳴動要因設定
音響出力端子設定

鳴動要因設定 ▼
火災/防排煙(L/DA)
ガスもれ(GL)
諸表示入力(LX)

操作

3

地区窓表示機設定の共通操作(P.62)を行った後に、「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して[音響設定]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

4

「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して[鳴動要因設定]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

5

「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して、設定項目を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

設定項目については、以下を参照してください。

設定項目
火災/防排煙(L/DA)
ガスもれ(GL)
諸表示入力(LX)
消火栓入力(HL/HV)

3 設定方法



6 「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して、回線を選択し、「◀(左)」「▶(右)」スイッチを押して、設定項目を選択します。

「実行」スイッチが点滅します。
必要な回線すべてを設定します。
設定項目については、以下を参照してください。

回線	設備区分	設定項目
L ^{*1}	火災	[有]、[無]
	諸警報	[有]、[無]
L/DA ^{*1}	火災	[有]、[無]
	防排煙	[L:無 DA:有]、[L:無 DA:無]、[L:有 DA:無]
	諸警報	[L:有 DA:有]、[L:無 DA:有]、[L:無 DA:無]、[L:有 DA:無]
DA ^{*1}	防排煙	[有]、[無]
	諸警報	[有]、[無]
GL ^{*1}	ガスもれ	[有]、[無]
LX ^{*2}	諸警報	[有]、[無]
HL/HV ^{*3}	消火栓入力	[有]、[無]

※1：地区灯は音響が鳴動する場合は点灯、鳴動しない場合は消灯します。

※2：諸表示灯は音響が鳴動する場合は点灯、鳴動しない場合は消灯します。

※3：消火栓灯は音響が鳴動する場合は点灯、鳴動しない場合は消灯します。



Point

L/DA回線は設備区分により、鳴動要因が異なります。

設備区分	鳴動要因
火災	L
防排煙	DA
諸警報	L,DA

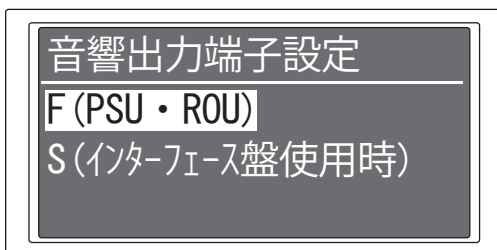
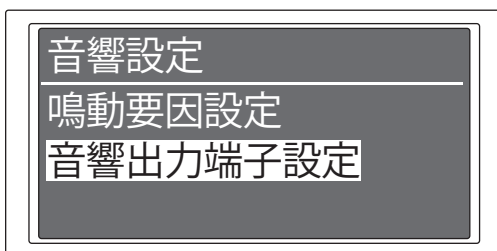
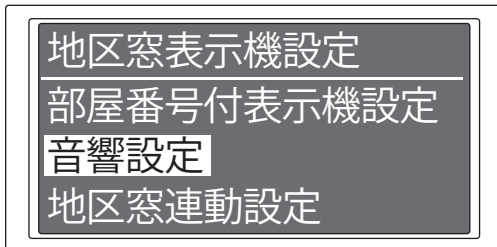
設備区分が防排煙の場合、初期状態では端末応答信号の入力によって表示機音響が出力されます。連動用感知器作動信号の入力によって表示機音響を出力する場合は、設定を変更してください。

7 「実行」スイッチを押します。
設定完了です。

3 設定方法

■ 音響出力端子設定

表示機音響の出力端子を設定します。設定された端子 (Fn、Sn) にはステータス要因「02.表示機音響」が連動設定されます (P.51を参照してください)。



操作 3

地区窓表示機設定の共通操作 (P.62) を行った後に、「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して[音響設定]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

4

「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して「音響出力端子設定」を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

5

[F(PSU・ROU)]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

6

「△(上)」「▽(下)」「◀(左)」「▶(右)」スイッチを押して連動先の番号を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

「実行」スイッチ灯が点滅し、地区灯が点灯します。

各回線の液晶表示	地区灯	表示の意味
点灯 	点灯	選択済み (設定あり)
点滅 	点滅	カーソル 選択中
消灯 	消灯	未選択 (設定なし)

必要な回線すべてを設定します。

7

「実行」スイッチを押します。

設定完了です。



Point

選択したFに「ステータス要因:表示機音響」以外の連動要因が設定されていた場合は注意画面を表示します。そのまま設定を行った場合、元の連動要因と重複して設定されます。必要に応じて別の連動先の番号に設定し直してください。

3 設定方法

■ 地区窓連動を設定するには



- ・地区窓表示機の地区灯の設定は、[『3-8 各種連動設定\[08.連動設定\]』\(p.41\)](#)で設定する必要があります。
- ・操作4で[『3-8 各種連動設定\[08.連動設定\]』\(p.41\)](#)に移動しますので、「3-8-2～」または「3-8-3～」を参照して、地区窓表示機の地区灯の連動設定を行ってください。

地区窓表示機設定
部屋番号付表示機設定
音響設定
地区窓連動設定

地区窓連動設定 ▼
[08. 連動設定]にて、
移報接点F(S)に表示機
地区灯用の連動設定を

地区窓連動設定 ▲
行ってください。連動
設定に移動します。
[実行]で移動

操作 3

地区窓表示機設定の共通操作([P.62](#))を行った後に、「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して[地区窓連動設定]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

説明画面が表示されるため、「△(上)」「▽(下)」スイッチで表示内容を確認します。
[実行]スイッチが点滅します。

4

「実行」スイッチを押します。
[『3-8 各種連動設定\[08.連動設定\]』\(p.41\)](#)の画面に移行しますので、地区窓表示機の地区灯の連動設定を行ってください。
例) L1⇒F6、L2⇒F7、L3⇒F8、…

3-9-2 メッセージ表示機設定

メッセージ表示機を使用する物件の場合は、以下の手順で設定を行います。

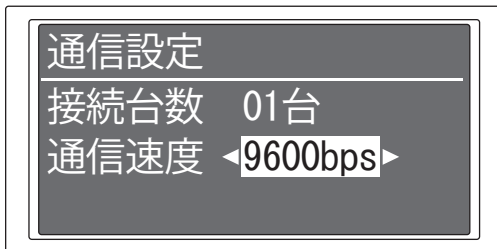
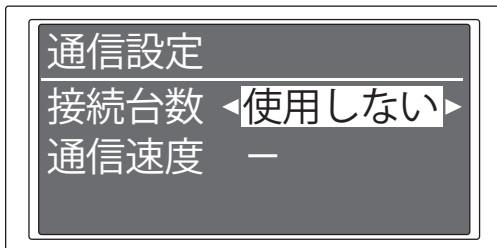
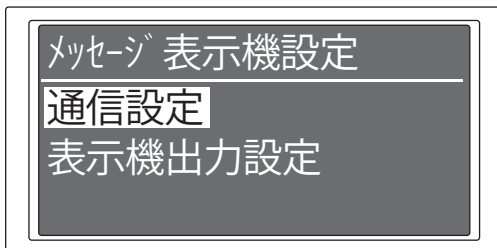
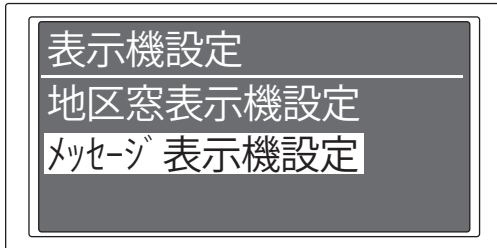
- ① 「通信設定」で、メッセージ表示機の接続台数と通信速度を設定します。
- ② 「表示機出力設定」で、メッセージ表示機の画面表示・音響鳴動の要因を設定します。

設定項目	設定内容	記載先
通信設定	メッセージ表示機の接続台数と通信速度を設定します。	P.68
表示機出力設定	メッセージ表示機の画面表示・音響鳴動の要因を設定します。	P.69

3 設定方法

■ 通信設定をするには

初期状態では、接続台数は[使用しない](メッセージ表示機を使用しない)、通信速度は[-](なし)に設定されています。



操作

2

表示機設定の共通操作(P.62)を行った後に、「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して[メッセージ表示機設定]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

3

「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して「通信設定」を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

4

「◀(左)」「▶(右)」スイッチを押してメッセージ表示機の接続台数を選択します。

通信速度に「9600bps」が表示されます。
実行スイッチが点滅します。

5

通信速度の変更が必要な場合は、「▽(下)」スイッチを押してカーソルを通信速度に合わせ、「◀(左)」「▶(右)」スイッチを押して通信速度を選択します。

設定項目については、以下を参照してください。

	設定項目
接続台数	[使用しない] ^{*1} 、 [01台]~[31台]
通信速度	[9600bps]、[1200bps]

※1：接続台数が[使用しない]の場合、通信速度は「-」が表示されます。

6

「実行」スイッチを押すと説明画面が表示されるため、「△(上)」「▽(下)」スイッチで表示内容を確認し、再度「実行」スイッチを押します。

設定完了です。

3 設定方法



Point

- ・ 接続台数の変更 ([使用しない] ⇔ [1台]以上) により、以下の設定が変更されます。
「使用しない」→「1台」以上に変更した場合
①表示機出力設定 (『[■ 表示機出力設定をするには \(P.69\)](#)』) がすべて [有] に変更
「1台」以上→「使用しない」に変更した場合
①表示機出力設定 (『[■ 表示機出力設定をするには \(P.69\)](#)』) がすべて [無] に変更
②『[3-10 遮断スイッチ設定 \[10.遮断スイッチ\]](#)』(p.71) のメッセージ表示機遮断が [OFF] に変更
- ・ 通常は9600bpsで使用してください。ノイズなどの影響で表示機との伝送が不安定な場合に、1200bpsに変更してください。その場合、メッセージ表示機側の通信速度も変更してください。変更方法はメッセージ表示機の取扱説明書を確認してください。
- ・ 部屋番号付表示機とメッセージ表示機の混在はできません。部屋番号付表示機を使用する設定にしている場合は、操作4時に部屋番号付表示機の設定解除確認画面が表示されますので、「実行」スイッチを押して部屋番号付表示機の設定を解除してください。

■ 表示機出力設定をするには

初期状態では、すべての回線が [有] に設定されています。



Point

- ・ 表示機出力設定をするには、先に『[■ 通信設定をするには](#)』(p.68) でメッセージ表示機の接続台数を1台以上に設定してください。
- ・ メッセージ表示機の画面表示、音響鳴動は個別に設定できません。出力を [有] にした場合は、画面表示と音響鳴動の両方が動作します。
- ・ 出力要因には、火災/防排煙回線(L/DA)、ガスもれ(GL)、諸表示回線(LX)および消火栓入力(HL/HV)を設定できます。

表示機設定
地区窓表示機設定
メッセージ表示機設定

メッセージ表示機設定
通信設定
表示機出力設定

操作

2

表示機設定の共通操作(P.62)を行った後に、「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して [メッセージ表示機設定] を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

3

「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して「表示機出力設定」を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

3 設定方法



4 「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して、設定項目を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

設定項目については、以下を参照してください。

設定項目
火災/防排煙(L/DA)
ガスもれ(GL)
諸表示入力(LX)
消火栓入力(HL/HV)

5 「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して、回線を選択し、「◀(左)」「▶(右)」スイッチを押して、設定項目を選択します。

「実行」スイッチが点滅します。

必要な回線すべてを設定します。

設定項目については、以下を参照してください。

回線	設備区分	設定項目
L ^{*1}	火災	[有]、[無]
	諸警報	[有]、[無]
L/DA ^{*1}	火災	[有]、[無]
	防排煙	[有]、[無]
DA ^{*1}	防排煙	[有]、[無]
	諸警報	[有]、[無]
GL ^{*1}	ガスもれ	[有]、[無]
LX ^{*2}	諸警報	[有]、[無]
HL/HV ^{*3}	消火栓入力	[有]、[無]

※1：地区灯は、メッセージ表示機の画面表示、音響鳴動をする場合は点灯、鳴動しない場合は消灯します。

※2：諸表示灯は、メッセージ表示機の画面表示、音響鳴動をする場合は点灯、鳴動しない場合は消灯します。

※3：消火栓灯は、メッセージ表示機の画面表示、音響鳴動をする場合は点灯、鳴動しない場合は消灯します。

3 設定方法

3-10 遮断スイッチ設定 [10.遮断スイッチ]

地区別移報(F)に遮断スイッチを設定します。すでに設定されている遮断スイッチを解除する場合も、手順は同じです。

なお、本設定項目で設定できる遮断スイッチは以下のとおりです。

- ・ [『3-7 OPスイッチ用途設定\[07.OPスイッチ用途\]』\(p.40\)](#)で遮断スイッチに設定したオプションスイッチ
- ・ 「火災代表遮断」スイッチ
- ・ 「非常放送遮断」スイッチ
- ・ 「消火栓遮断」スイッチ
- ・ 「防排煙遮断」スイッチ

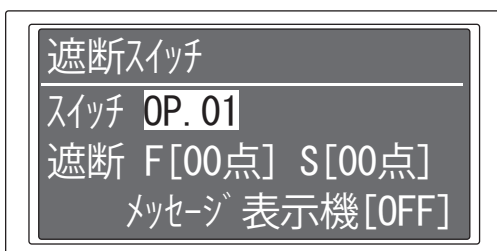
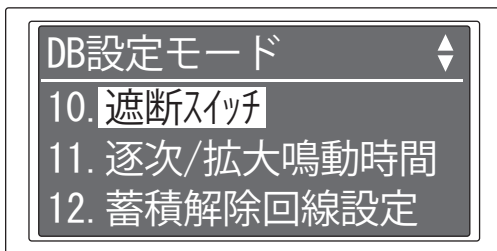
初期状態では、オプションスイッチOP1～OP5が、F1～F5の遮断スイッチに1対1で設定されています。



[『3-7 OPスイッチ用途設定\[07.OPスイッチ用途\]』\(p.40\)](#)で用途を遮断スイッチから変更した場合、遮断スイッチ設定の初期状態が自動で解除されます。



- ・ 1つの遮断スイッチで複数の地区別移報(F)を遮断設定できます。
- ・ 1つの地区別移報(F)に複数の遮断スイッチを設定することはできません。



操作

1

メニューから「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して[10.遮断スイッチ]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

2

「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して設定項目を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

設定項目については、以下を参照してください。

設定項目
[OP.01～21]
[火災代表遮断]
[非常放送遮断]
[消火栓遮断]
[防排煙遮断]

3 設定方法



3 「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して設定項目を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

設定項目については、以下を参照してください。

設定項目
[F]、[S]、[メッセージ表示機]

■ **メッセージ表示機を選択した場合**
説明画面が表示されるため、表示内容を確認し、「実行」スイッチを押します。

設定完了です。

■ **F、Sを選択した場合**





操作4から操作を続けてください。

4 「△(上)」「▽(下)」「◀(左)」「▶(右)」スイッチを押して遮断(または解除)する遮断先の番号を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

「実行」スイッチ灯が点滅し、地区灯が点灯します。

必要な遮断先すべてを設定します。

遮断先の番号を選択中に設定済みの遮断先の番号の地区灯が点灯します。

各遮断先の番号の液晶表示	地区灯	表示の意味
点灯 	点灯	選択済み (設定あり)
点滅 	点滅	カーソル選択中
消灯 	消灯	未選択 (設定なし)
下線 ^{※1} 	—	すでに他のスイッチが設定済み

※1：選択し、実行することで設定を上書きします。

3 設定方法



下線(すでに他の遮断スイッチが設定済み)の遮断先の番号を選択して設定した場合、既に設定されていた遮断スイッチを解除して、新たな遮断スイッチで上書きすることができます。

5 「実行」スイッチを押します。
設定完了です。

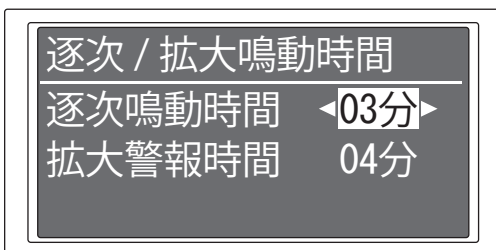
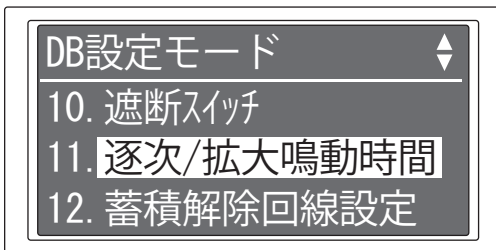
3-11 逐次/拡大鳴動時間設定 [11. 逐次/拡大鳴動時間]

地区音響の逐次鳴動時間および拡大警報時間を設定します。逐次鳴動時間とは、火災発生時に地区音響を停止してから再度鳴動を開始するまでの時間を指します。拡大警報時間とは、火災発生時に地区音響区分鳴動から全館一斉鳴動に移行するまでの時間を指します。

初期状態では、逐次鳴動時間が[03]分、拡大警報時間が[04]分に設定されています。



- ・ 逐次鳴動時間は[02、03、04、05、06、07、08]分、拡大警報時間は[なし、04、05、06、07、08、09、10]分から選択できます。
- ・ 地区音響を使用しない場合または一斉鳴動の場合は、拡大警報は[なし]に設定してください。
- ・ 逐次鳴動時間は、拡大警報時間より長く設定することはできません。
- ・ 逐次鳴動時間を初期値の3分から4分以上に設定変更する場合には、あらかじめ拡大警報時間(初期値:4分)を、逐次鳴動時間に設定する値よりも長い時間または[なし]に設定変更してください。



操作

1 メニューから「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して[11. 逐次/拡大鳴動時間]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

2 「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して設定項目を選択し、「◀(左)」「▶(右)」スイッチを押して時間(分)を選択します。

「実行」スイッチ灯が点滅します。
設定項目については、以下を参照してください。

	設定項目
逐次鳴動時間	[02]、[03]、[04]、[05]、[06]、[07]、[08]
拡大警報時間	[なし]、[04]、[05]、[06]、[07]、[08]、[09]、[10]

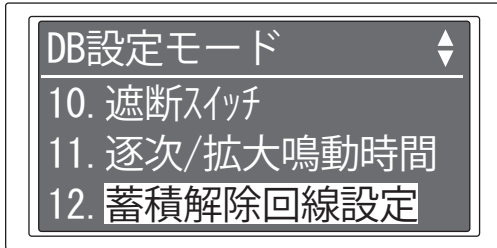
3 「実行」スイッチを押します。
設定完了です。

3 設定方法

3-12 蓄積解除回線設定 [12.蓄積解除回線設定]

火災/防排煙回線(L)の蓄積機能を解除します。蓄積機能を解除した場合、火災信号を受信すると、ただちに火災警報を発します。

初期状態では、すべての火災/防排煙回線(L)で蓄積機能が作動するように設定されています。



操作

1 メニューから「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して[12.蓄積解除回線設定]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

2 「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して回線を選択し、「◀(左)」「▶(右)」スイッチで設定項目を選択します。

「実行」スイッチ灯が点滅します。
地区灯は[蓄積あり]に設定された場合は消灯、[蓄積なし]に設定された場合は点灯します。

必要な回線すべてを設定します。
設定項目については、以下を参照してください。

設定項目

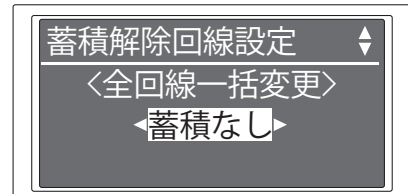
[蓄積あり]、[蓄積なし]、[-]^{※1}

※1：設備区分が諸警報の場合、選択できません。

3 「実行」スイッチを押します。
設定完了です。



すべての回線の設定項目を一括で設定することができます。
[全回線一括変更]は最後の回線の次に存在します。

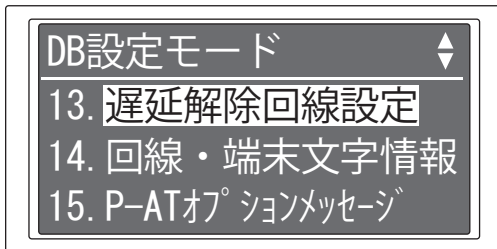


3 設定方法

3-13 遅延解除回線 [13.遅延解除回線設定]

ガスもれ回線(GL)の遅延機能を解除します。遅延機能を解除した場合、ガスもれ信号を受信すると、ただちにガスもれ警報を発します。

初期状態では、すべてのガスもれ回線(GL)で遅延機能が作動するように設定されています。



操作

1

メニューから「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して[13.遅延解除回線]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

2

「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して回線を選択し、「◀(左)」「▶(右)」スイッチで設定項目を選択します。

「実行」スイッチ灯が点滅します。
地区灯は[遅延あり]に設定された場合は点灯、[遅延なし]に設定された場合は消灯します。

必要な回線すべてを設定します。
設定項目については、以下を参照してください。

設定項目

[遅延あり]、[遅延なし]

3

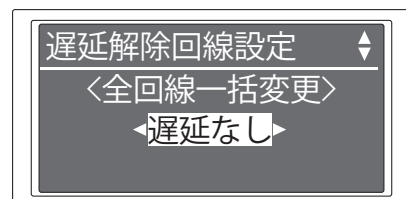
「実行」スイッチを押します。

設定完了です。



Point

すべての回線の設定項目を一括で設定することができます。
[全回線一括変更]は最後の回線の次に存在します。



3 設定方法

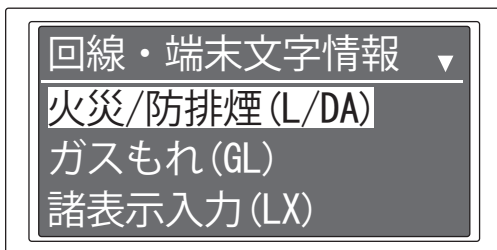
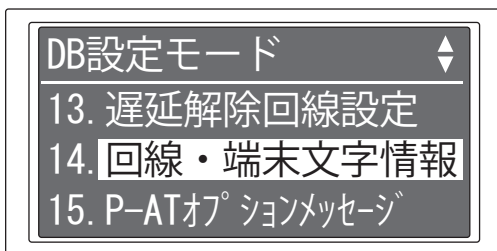
3-14文字情報設定[14.回線・端末文字情報]

受信機で扱う各種文字情報の確認と初期化が行えます。

初期状態は『[文字情報を確認するには](#)』(p.77)に記載します。

各種文字情報は、火災などのイベントが発生した場合のLCD画面への表示や履歴保存などに使用します。操作の対象は、火災/防排煙(L/DA)、ガスもれ(GL)、諸表示入力(LX)、消火栓入力(HL/HV)、OPスイッチ、個別スイッチ(DA)、移報(F)、外移報(S)、地区ベル(K)です。

文字情報設定の共通操作



操作

1

メニューから「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して[14.回線・端末文字情報]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

2

「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して、確認したい項目を選択し「設定/確認」スイッチを押します。

設定項目については、以下を参照してください。

設定項目
火災/防排煙(L/DA)
ガスもれ(GL)
諸表示入力(LX)
消火栓入力(HL/HV)
OPスイッチ
個別スイッチ(DA)
移報(F)
外移報(S)
地区ベル(K)



- ・ 文字情報の登録がない項目を選択した場合は、注意画面が表示されます。
- ・ 初期設定以外の文字情報を登録するにはDBTOOLが必要です。

3 設定方法

■ 文字情報を確認するには

<画面構成の説明図>
例) 火災/防排煙(L/DA)



操作 3

共通操作(P.76)を行った後に、「△(上)」
「▽(下)」 「◀(左)」 「▶(右)」スイッチを押し
て、回線、番号^{*1}を選択します。

※1：消火栓入力(HL/HV)の場合は記号、
回線番号の選択は不要です。

- ①記号
- ②回線またはスイッチ番号
- ③種別名称
- ④状態文字
- ⑤回線オプションメッセージ

初期状態では、以下のように設定されています。

設定項目	回線	設備区分	①記号	③種別名称	④状態文字	⑤回線オプションメッセージ
火災/ 防排煙	火災回線 (L)	火災	L	なし	なし	なし
		諸警報		諸警報	作動	なし
	防排煙回線 (L/DA)	火災	L/DA	なし	なし	なし
		防排煙		端末装置	作動	なし
		諸警報		諸警報	作動	なし
ガスもれ	ガスもれ回線 (GL)	ガスもれ	GL	なし	なし	なし
諸表示入力	諸表示回線 (LX)	諸警報	LX	諸警報	作動	なし
消火栓入力	—	消火栓入力	HL/HV	消火栓ポンプ	運転	なし
OPスイッチ	—	—	OP	OPスイッチ	—	—
個別スイッチ	—	—	DA	個別スイッチ	—	—
移報	—	—	F	なし	—	なし
外移報	—	—	S	なし	—	なし
地区ベル	—	—	K	なし	—	なし

3 設定方法

■ 文字情報を初期化するには

初期化では現在登録されている文字が、初期状態の文字に戻ります。



Point

- ・ 初期化はDBTOOLで各種文字情報の設定およびLCD表示設定を「DBデータ表示」に設定した場合のみ可能です。DBOOLでの設定を行っていない場合は、初期化操作はできません。
- ・ 初期状態の文字情報を削除することはできません。



操作 3

共通操作(P.76)を行った後に、「△(上)」「▽(下)」「◀(左)」「▶(右)」スイッチを押して、回線、番号^{*1}を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

※1：消火栓入力(HL/HV)の場合は回線、番号の選択は不要です。

4

「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して、項目を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。「実行」スイッチが点滅します。

①種別名称

②状態文字

③回線オプションメッセージ

「種別名称」と「状態文字」はセットで初期化されます。「回線オプションメッセージ」は単独での初期化が可能です。

5

説明画面が表示されるため、表示内容を確認し、「実行」スイッチを押します。

初期化完了です。



Point

初期化実行後、種別名称・状態文字、回線オプションメッセージが共にない場合は操作3の回線選択に戻ります。

3 設定方法

3-15 オプションメッセージ設定 [15.P-ATオプションメッセージ]

P-AT感知器に対応するP-ATオプションメッセージを設定します。テンキーを使用し、数字・アルファベットの「0、1、2、3、4、5、6、7、8、9、A、B、C、D、E、F、G」および空白が入力できます。

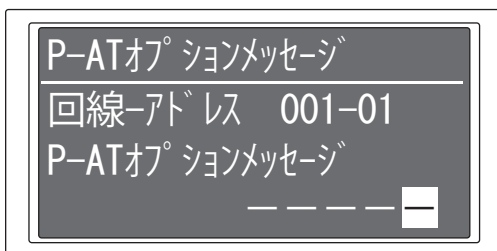
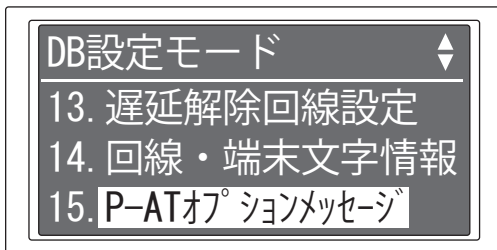
初期状態では、P-ATオプションメッセージは設定されていません。



- ・ テンキーについては、『1-1 受信機の表示とスイッチ操作について』(p.7)を参照してください。
- ・ 半角5文字分の設定が可能です。
- ・ DBTOOLでは日本語、英数字合わせて全角10文字(半角20文字)分の設定が可能です。



P-ATオプションメッセージが設定されているP-AT感知器を撤去する場合は、必要に応じて、本機能でそのP-AT感知器のP-ATオプションメッセージを削除してください。
P-ATオプションメッセージのあるアドレスにP-AT感知器を接続しなくても、異常にはなりません。未接続として扱います。



操作

- 1 メニューから「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して[15.P-ATオプションメッセージ]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。
- 2 「△(上)」「▽(下)」「◀(左)」「▶(右)」スイッチを押して回線とアドレスを選択し、「設定/確認」スイッチを押します。
- 3 「テンキー」スイッチを押してP-ATオプションメッセージを入力します。

スイッチ	動作
「テンキー」スイッチ	数字・アルファベット入力
「◀(左)」スイッチ	LCD画面点滅部の数字・アルファベット削除
「▶(右)」スイッチ	空白を入力※ ¹

※1：空白のみのP-ATオプションメッセージは設定できません。

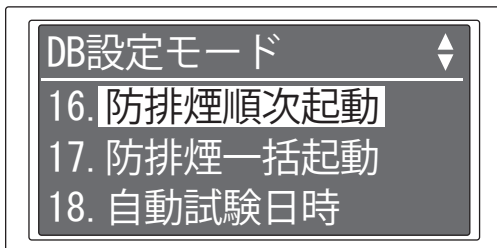
3 設定方法

3-16 防排煙順次起動設定 [16.防排煙順次起動]

防排煙順次起動設定は、防排煙電源容量を超えないように、防排煙の同時制御を制限する設定です。**初期状態では、同時制御回線数が[02]、応答故障時間が起動[30秒]・復帰[1分]ですが、回線設定がすべての防排煙回線(D)で[対象外]に設定されているため、防排煙順次起動は行いません。**以下の設定が可能です。

設定項目	設定内容	記載先
同時制御回線数設定	防排煙順次起動の同時制御回線数を設定します。	P.80
応答故障時間設定	防排煙順次起動の応答故障時間を設定します。	P.81
順次起動対象回線設定	防排煙順次起動の順次起動対象回線を設定します。	P.81

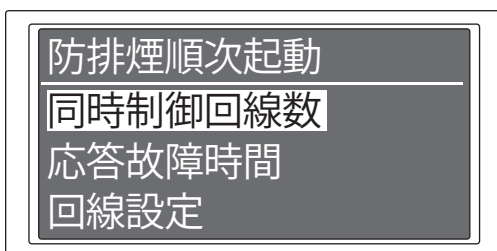
防排煙順次起動設定の共通操作



操作

1 メニューから「△(上)」 「▽(下)」スイッチを押して[16.防排煙順次起動]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

■ 同時制御回線数を設定するには



操作

2 共通操作([P.80](#))を行った後に、「△(上)」 「▽(下)」スイッチを押して[同時制御回線数]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

3

「◀(左)」 「▶(右)」スイッチを押して設定項目を選択します。

「実行」スイッチが点滅します。設定項目については、以下を参照してください。

	設定項目
回線数	01~40

4

「実行」スイッチを押します。
設定完了です。

3 設定方法

■ 応答故障時間を設定するには



応答故障時間とは、防排煙起動(復帰)制御後、防排煙からの応答信号時間(復帰の場合は応答信号が解除される時間)を待つ時間です。設定した時間以内に応答信号を受信できない場合(復帰の場合は応答信号が解除されない場合)、防排煙起動(復帰)制御をOFFし、次の防排煙回線を起動(復帰)制御します。
なお、起動制御で応答信号を受信できなかった場合は、上記動作に加え、不作動異常を表示します。

防排煙順次起動
同時制御回線数
応答故障時間
回線設定

応答故障時間
起動 ◀30秒▶
復帰 1分

■ 順次起動対象回線を設定するには

防排煙順次起動
同時制御回線数
応答故障時間
回線設定

回線設定
D 006 ▶対象外▶
D 007 対象外
D 008 対象外

操作

2

共通操作(P.80)を行った後に、「△(上)」
「▽(下)」スイッチを押して[応答故障時間]
を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

3

「◀(左)」「▶(右)」スイッチを押して設定
項目を選択します。

「実行」スイッチが点滅します。
設定項目については、以下を参照してくだ
さい。

	設定項目
起動	[10秒]、[20秒]、[30秒]、[40秒]、 [50秒]、[60秒]
復帰	[1分]、[2分]、[3分]、[4分]、[5分]

4

「実行」スイッチを押します。
設定完了です。

操作

2

共通操作(P.80)を行った後に、「△(上)」
「▽(下)」スイッチを押して[回線設定]を
選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

3

「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して回線
を選択し、「◀(左)」「▶(右)」スイッチを
押して設定項目を選択します。

「実行」スイッチが点滅します。
地区灯は[対象]に設定された場合は点灯、
[対象外]に設定された場合は消灯します。
必要な回線すべてを設定します。
設定項目については、以下を参照してくだ
さい。

設定項目
[対象]、[対象外]

3 設定方法

4 「実行」スイッチを押します。 設定完了です。



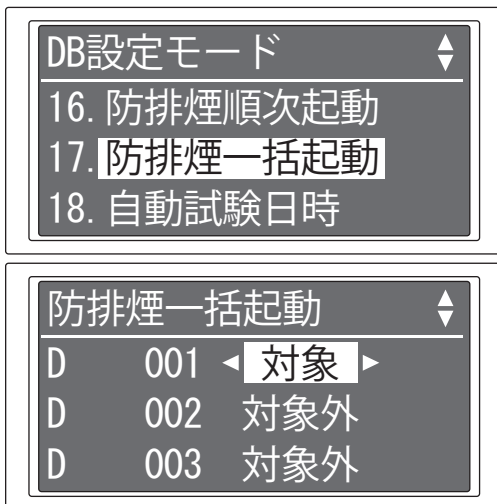
すべての回線の設定項目を一括で設定することができます。
[全回線一括変更]は最後の回線の次に存在します。



3-17 防排煙一括起動 [17.防排煙一括起動]

防排煙一括起動信号の入力により、一括起動する防排煙回線を設定します。
本設定は特盤用の機能です。標準盤には本項目はありません。

初期状態では、回線設定がすべての防排煙回線(D)で[対象外]に設定されています。



操作

1 メニューから「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して[17.防排煙一括起動]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

2 「◀(左)」「▶(右)」スイッチを押して設定項目を選択します。

「実行」スイッチが点滅します。
地区灯は[対象]に設定された場合は点灯、[対象外]に設定された場合は消灯します。
必要な回線すべてを設定します。
設定項目については、以下を参照してください。

設定項目

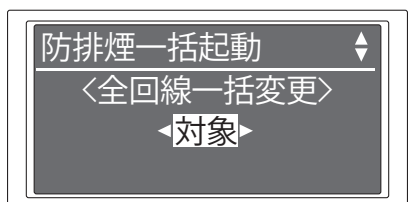
[対象]、[対象外]、[-]^{※1}

※1：防排煙復帰回線(DR)の場合、選択できません。

3 「実行」スイッチを押します。
設定完了です。



すべての回線の設定項目を一括で設定することができます。
[全回線一括変更]は最後の回線の次に存在します。

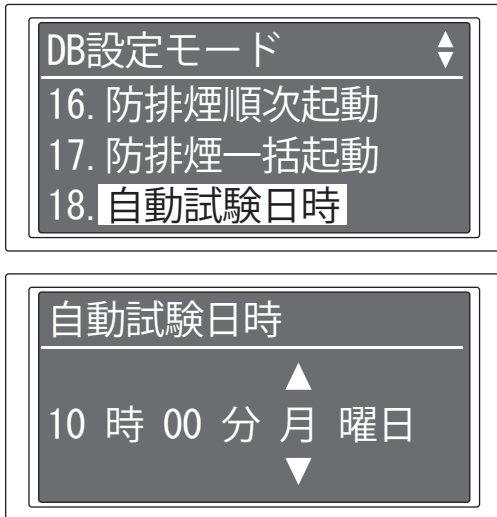


3 設定方法

3-18 自動試験日時設定 [18.自動試験日時]

自動試験の開始日時を設定します。

初期状態では、月曜日の午前10時に設定されています。



操作

- 1 メニューから「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して[18.自動試験日時]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。
- 2 「△(上)」「▽(下)」「◀(左)」「▶(右)」スイッチを押して自動試験日時を選択します。
「実行」スイッチ灯が点滅します。
- 3 「実行」スイッチを押します。
設定完了です。

3-19 HOST設定 [19.HOST設定]

受信機とゲートウェイなどの外部機器との通信における設定を行います。

初期状態では、通信速度の初期値が[38400bps]、異常検出の初期値が[なし]に設定されています。



操作

- 1 メニューから「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して[19.HOST設定]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。
- 2 「△(上)」「▽(下)」「◀(左)」「▶(右)」スイッチを押して設定項目を選択します。
「実行」スイッチが点滅します。
設定項目については、以下を参照してください。

	設定項目
通信速度	[38400bps]、 [9600bps]、 [19200bps]
異常検出	[なし]、[あり]



異常検出を「あり」に設定すると、HOST通信先のシステムとの通信状態を監視します。
システムを接続しない場合は、異常検出を「なし」に設定します。

3 設定方法



異常検出は通常[なし]のままにしてください。不必要に変更すると、受信機が異常警報を発生します。

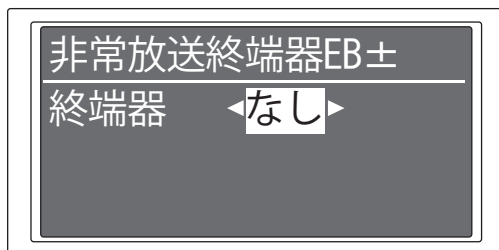
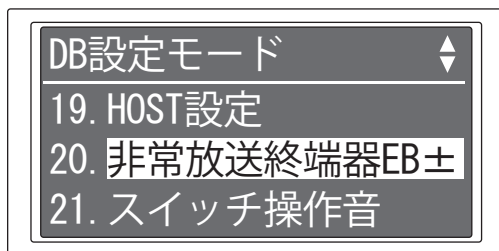
3 「実行」スイッチを押します。
設定完了です。

3-20 非常放送終端器設定[20.非常放送終端器EB±]

非常放送終端器 (EB±) の断線・短絡を監視するかどうかを設定します。
監視する場合は、終端器を[あり]に設定し、非常放送終端器を接続してください。
監視しない場合は終端器を[なし]にしてください(非常放送終端器を接続する必要はありません)。
初期状態では[なし]に設定されています。



非常放送設備とベルを併用する場合は、必ず監視[あり]に設定して、非常放送終端器を接続してください。



操作

1 メニューから「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して[20.非常放送終端器EB±]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

2 「◀(左)」「▶(右)」スイッチを押して設定項目を選択します。

「実行」スイッチ灯が点滅します。
設定項目については、以下を参照してください。

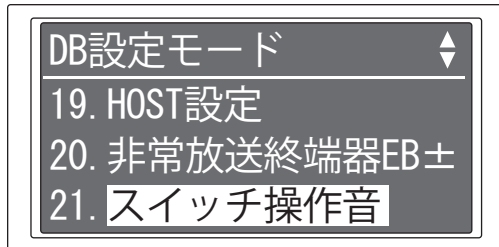
	設定項目
終端器	[なし]、[あり]

3 「実行」スイッチを押します。
設定完了です。

3 設定方法

3-21 スイッチ操作音設定[21.スイッチ操作音]

各スイッチを押したときに、操作音を鳴らすかどうかを設定します。
初期状態では、スイッチの操作音が鳴動するように設定されています。



操作

1 メニューから「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して[21.スイッチ操作音]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

2 「◀(左)」「▶(右)」スイッチを押して設定項目を選択します。

「実行」スイッチ灯が点滅します。
設定項目については、以下を参照してください。

	設定項目
操作音	[あり]、[なし]

3 「実行」スイッチを押します。
設定完了です。

3-22 諸警報保持設定[22.諸警報保持]

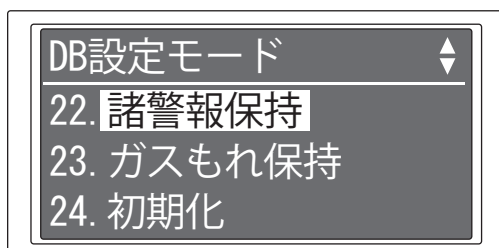
一度検出した諸警報(L/DA)、諸表示入力(LX)、消火栓入力(HL/HV)の信号をOFFしても、受信機の警報状態を継続したい場合に設定します。なお、保持設定された回線は設備復帰後、復旧スイッチ操作により警報状態が解除されます。

初期状態では、全て[非保持]に設定されています。

諸警報保持設定では以下の設定が可能です。

設定項目	設定内容	記載先
諸警報(L/DA)	諸警報(L/DA)からの信号を保持するかどうかを設定します。	P.86
諸表示入力(LX)	諸表示入力(LX)からの信号を保持するかどうかを設定します。	P.87
消火栓入力(HL/HV)	消火栓入力(HL/HV)からの信号を保持するかどうかを設定します。	P.88

諸警報保持設定の共通操作



操作

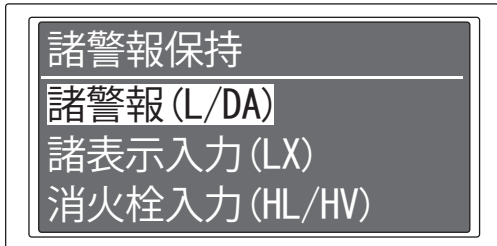
1 メニューから「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して[22.諸警報保持]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

3 設定方法

■諸警報(L/DA)



諸警報(L/DA)は、火災回線(L)、防排煙回線(L/DA)の設備区分が諸警報の場合のみ設定できます。設備区分設定については『3-2 設備区分設定:火災/防排煙回線L/DA[02.設備区分(L/DA)]』(p.20)を参照ください。



操作 2

共通操作(P.85)を行った後に、「△(上)」 「▽(下)」スイッチを押して[諸警報(L/DA)]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

3

「△(上)」 「▽(下)」スイッチを押して回線を選択し、「◀(左)」 「▶(右)」スイッチを押して設定項目を選択します。

「実行」スイッチ灯が点滅します。
地区灯は[保持]に設定された場合は点灯、
[非保持]に設定された場合は消灯します。
必要な回線すべてを設定します。
設定項目については、以下を参照してください。

設定項目

[非保持]、[保持]、[-]^{※1}

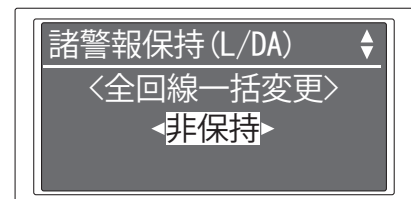
※1：設備区分が諸警報でない場合、選択できません。

4

「実行」スイッチを押します。
設定完了です。

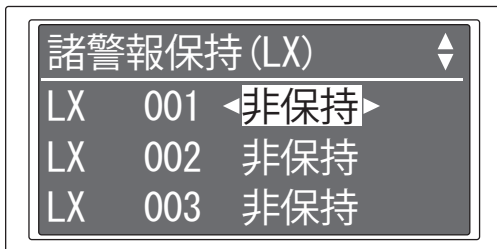
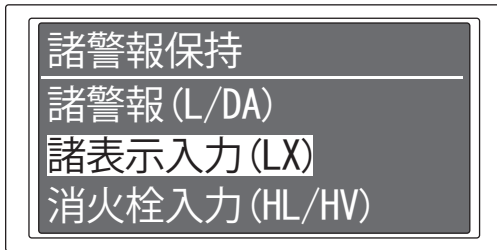


すべての回線の設定項目を一括で設定することができます。
[全回線一括変更]は最後の回線の次に存在します。



3 設定方法

■ 諸表示入力(LX)



操作 2

共通操作(P.85)を行った後に、「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して[諸表示入力(LX)]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

3

「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して回線を選択し、「◀(左)」「▶(右)」スイッチを押して設定項目を選択します。

「実行」スイッチ灯が点滅します。
諸表示灯は[保持]に設定された場合は点灯、
[非保持]に設定された場合は消灯します。
必要な回線すべてを設定します。
設定項目については、以下を参照してください。

設定項目

[非保持]、[保持]

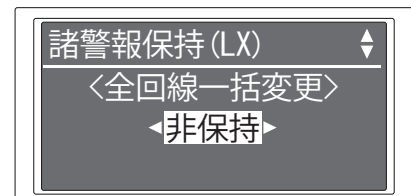
4

「実行」スイッチを押します。
設定完了です。



Point

すべての回線の設定項目を一括で設定することができます。
[全回線一括変更]は最後の回線の次に存在します。



3 設定方法

■ 消火栓入力(HL/HV)



操作

2

共通操作(P.85)を行った後に、「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して[消火栓入力(HL/HV)]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

3

「◀(左)」「▶(右)」スイッチを押して設定項目を選択します。

「実行」スイッチ灯が点滅します。
消火栓灯は[保持]に設定された場合は点灯、
[非保持]に設定された場合は消灯します。
設定項目については、以下を参照してください。

設定項目

[非保持]、[保持]

4

「実行」スイッチを押します。

設定完了です。

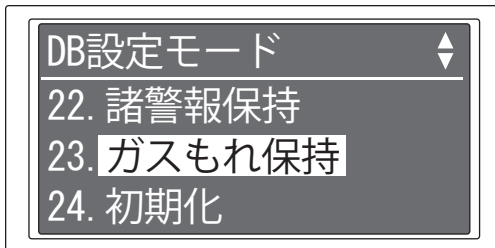
3 設定方法

3-23 ガスもれ保持[23.ガスもれ保持]

一度検出したガスもれ(GL)の信号をOFFしても、受信機の警報状態を継続したい場合に設定します。
初期状態では、[非保持]に設定されています。



ガスもれ受信機AAPJ006シリーズの標準盤には「復旧」スイッチがないため、ガスもれ保持に設定しないでください。



操作

1 メニューから「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して[23.ガスもれ保持]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

2 「◀(左)」「▶(右)」スイッチを押して設定項目を選択します。

「実行」スイッチ灯が点滅します。
設定項目については、以下を参照してください。

設定項目

[非保持]、[保持]

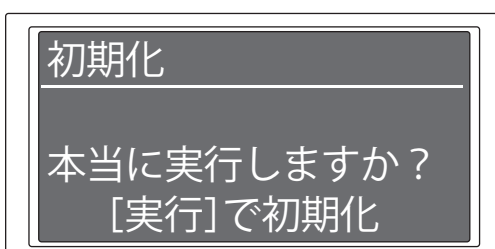
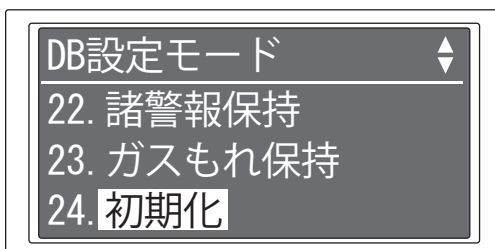
3 「実行」スイッチを押します。
設定完了です。

3-24 初期化設定[24.初期化]

データベース設定を初期状態『1-3 初期状態一覧』(p.12)に戻すことができます。



初期化を実行すると設定を戻すことはできません。



操作

1 メニューから「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して[24.初期化]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

説明画面が表示されるため、表示内容を確認し、「設定/確認」スイッチを押します。

「実行」スイッチが点滅します。

2 「実行」スイッチを押します。
データベース設定が初期化されます。

3 設定方法

3-25 SDカードについて[25.SDカード]

SDカードを使用して、以下の設定が可能です。

設定項目	設定内容	記載先
DBダウンロード/SD→受信機	データベース設定のデータをSDカードから受信機へダウンロードできます。	P.91
DBアップロード/受信機→SD	データベース設定のデータを受信機からSDカードへアップロードできます。	P.91
履歴保存	履歴をSDカードへアップロードできます。	P.92

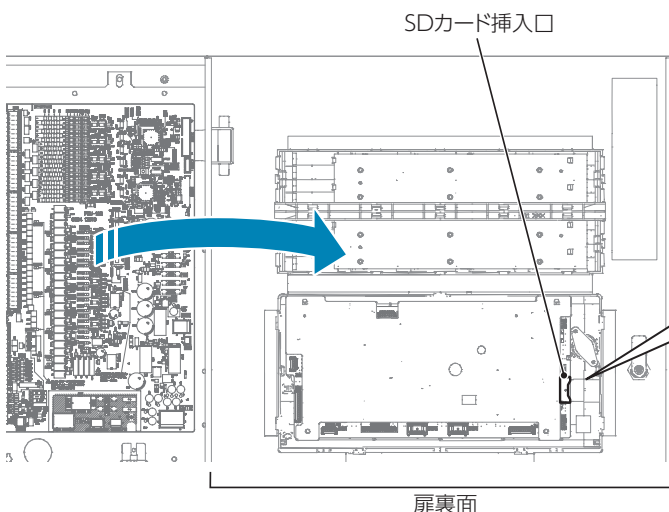


ファイルデータに異常がある場合、SDカードが未挿入の場合は、実行後エラーメッセージが表示されます。



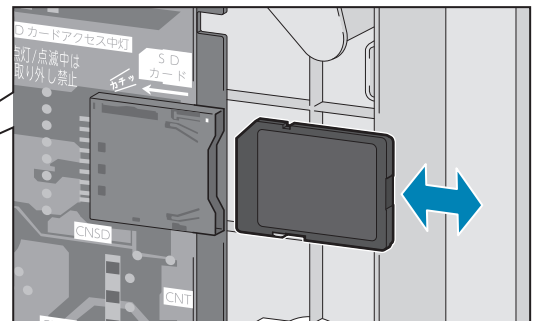
- ・ SDカードは、弊社指定品をご使用ください。弊社指定品以外をご使用されると、正常に動作しない場合があります。
- ・ SDカードは、高温・直射日光・多湿を避けてください。また、曲がり、強い力やショックを加えたり、落下させたりしないようにしてください。故障の原因になります。
- ・ SDカードのアクセス中は、「アクセス中灯」が点灯/点滅します。SDカードと基板上のメモリ間でデータ転送していますので、決してSDカードを取り外さないでください。データの破損や故障の原因になります。

■ SDカードの取り付け・取り外し方法



1 本機(扉裏面)に取り付けられた基板右側のSDカード挿入口へSDカードを挿入し、カチッと音が鳴るまで押し込みます。

また、再度カチッと音が鳴るまで押し込むことで取り外すことができます。



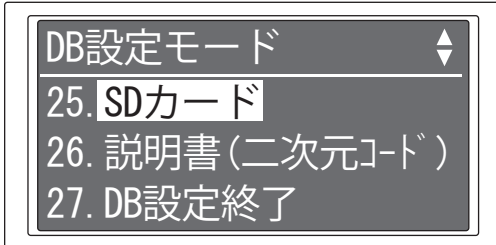
注意



強制・指示

上図の様にSDカード表面が手前を向いた状態で差し込みます。

SDカードについての共通操作

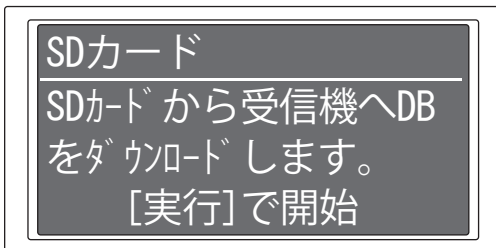


操作

1

メニューから「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して[25.SDカード]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

■ SDカードから受信機へデータベースをダウンロードするには



操作

2

共通操作(P.91)を行った後に、「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して[DBダウンロード/SD→受信機]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

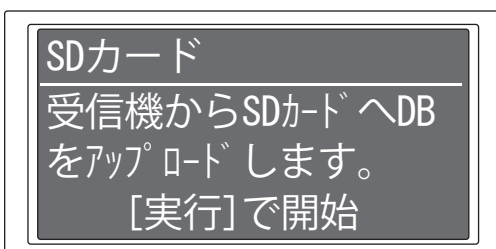
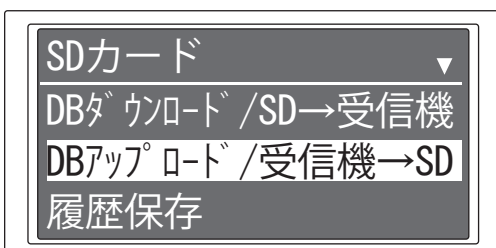
「実行」スイッチ灯が点滅します。

3

「実行」スイッチを押します。

LCD画面がダウンロード中画面に切り替わり、「実行」スイッチ灯が高速点滅します。ダウンロードが完了すると、LCD画面がダウンロード完了画面に切り替わり、実行スイッチが点灯し、ピー音が鳴動します。

■ 受信機からSDカードへデータベースをアップロードするには



操作

2

共通操作(P.91)を行った後に、「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して[DBアップロード/受信機→SD]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

「実行」スイッチ灯が点滅します。

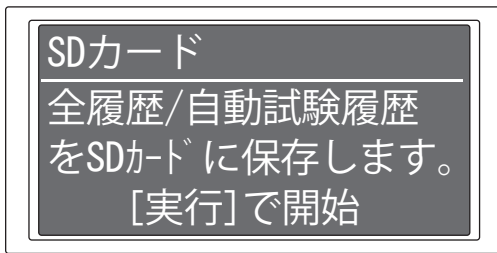
3

「実行」スイッチを押します。

LCD画面がアップロード中画面に切り替わり、「実行」スイッチ灯が高速点滅します。アップロードが完了すると、LCD画面がアップロード完了画面に切り替わり、実行スイッチが点灯し、ピー音が鳴動します。

3 設定方法

■ 受信機からSDカードに履歴を保存するには



操作 2

共通操作(P.91)を行った後に、「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して[履歴保存]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

「実行」スイッチ灯が点滅します。

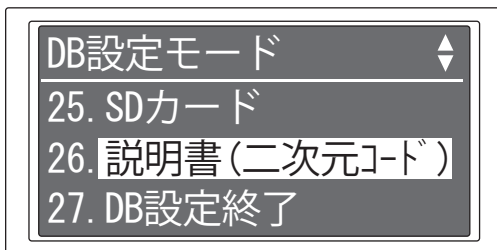
3

「実行」スイッチを押します。

LCD画面が履歴保存中画面に切り替わり、「実行」スイッチ灯が高速点滅します。履歴保存が完了すると、LCD画面が履歴保存完了画面に切り替わり、実行スイッチが点灯し、ピー音が鳴動します。

3-26 説明書(二次元コード)について [26.説明書(二次元コード)]

本機の説明書などを紹介しているWebページにリンクされた二次元コードを表示します。



操作

1

メニューから「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して[26.説明書(二次元コード)]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

LCD画面に二次元コードが表示されます。

2

「戻る」スイッチを押すとメニューへ戻ります。

4 データベース設定の終了

データベース設定の終了方法について説明します。
終了方法1 または終了方法2 どちらかの方法で終了してください。



警告



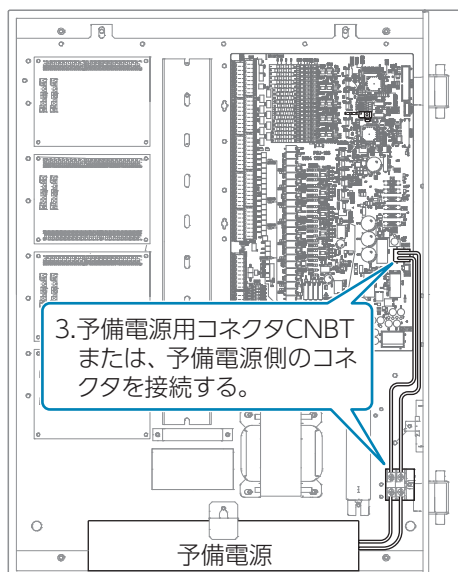
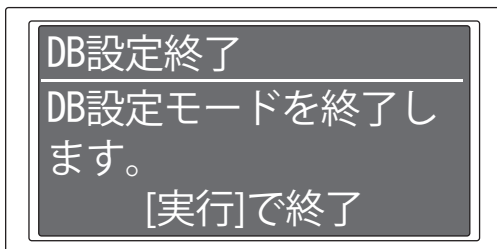
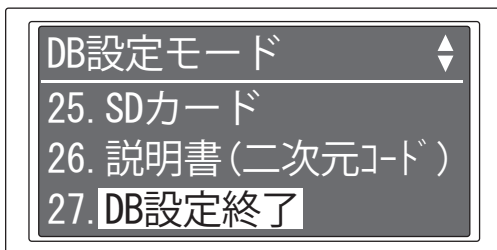
強制・指示

予備電源の接続は、+、-を絶対に間違わないように接続してください。

間違えた場合、予備電源を発熱・破裂させる原因になります。

4-1 終了方法1

AC電源の切断および投入をすることなく、本機を再起動します。



操作

1

メニューから「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して[27.DB設定終了]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

「実行」スイッチが点滅します。

2

「実行」スイッチを押します。

本機が再起動し、平常時の監視状態になります。

3

本機の扉を開き、予備電源用コネクタCNBTおよび予備電源用端子台(機種によりコネクタの場合あり)を確認し、はずれている場合は接続します。

左図はFCSJ40LTタイプの場合の例です。

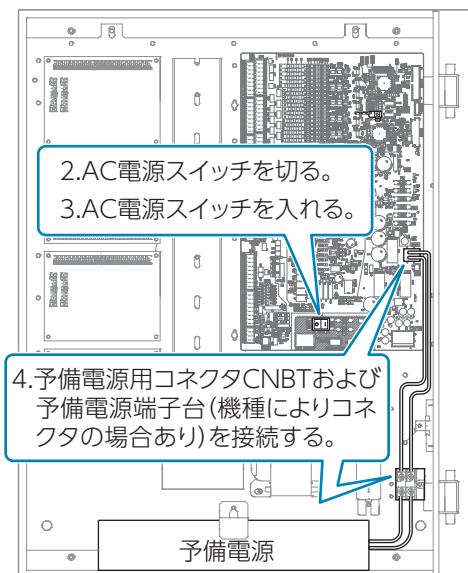
4

本機の扉を閉め、ドライバー錠をしっかりとめます。

4 データベース設定の終了

4-2 終了方法2

AC電源の切断および投入を行います。



操作

- 1 本機の扉を開きます。
- 2 本機内部のAC電源スイッチを切ります。
左図はFCSJ40LTタイプの場合の例です。
- 3 操作2でAC電源スイッチを切った後、データベース設定モード灯が完全に消灯してから、AC電源スイッチを入れます。
本機が再起動し、平常時の監視状態になります。
- 4 予備電源用コネクタCNBTおよび予備電源端子台(機種によりコネクタの場合あり)を接続します。
- 5 本機の扉を閉め、ドライバー錠をしっかりと止めます。

5 よくあるご質問 (Q&A)

お問い合わせの多いご質問をまとめました。

Q1	地区別移報F1にL1(火災)の連動を設定しましたが、L1以外の火災入力でF1が動作してしまいます。 (P.95)
Q2	地区別移報F1～F5(火災代表ステータス要因)および遮断スイッチOP1～OP5の初期設定の解除方法がわかりません。(P.95)
Q3	表示機の設定方法がわかりません。(P.97)
Q4	非常放送の設定方法がわかりません。(P.99)
Q5	異常代表(トラブル代表)の信号を移報したい。(P.101)
Q6	日時設定は必要ですか?(P.102)
Q7	火災回線(L)および防排煙回線(L/DA)では、[02.設備区分(L/DA)]で設備区分を「諸警報」に設定することはできますか?(P.102)
Q8	[02.設備区分(L/DA)]で設備区分を「諸警報」とした場合、警報を保持することはできますか? (P.102)
Q9	[02.設備区分(L/DA)]を変更した場合、設定内容は消去されますか?(P.102)
Q10	盤面でのデータベース設定またはDBTOOLでしかできない設定はありますか?(P.102)
Q11	オプションスイッチを「遮断スイッチ」に設定した場合、電源投入時に遮断状態で起動しますか? (P.102)
Q12	ROU基板およびSOU基板の枚数設定はどのように行いますか?(P.102)
Q13	ROU基板を内蔵した(型名の末尾に「T」が付く機種)盤を手配しましたが、受信機を起動してもROU 基板上にあるLTX灯(伝送灯)が点滅しません。(P.102)

Q1: 地区別移報F1にL1(火災)の連動を設定しましたが、L1以外の火災入力でF1が動作してしまします。

A1: 受信機の初期状態(『1-3 初期状態一覧』(p.12)を参照)では、F1～F5が火災代表となっています。火災代表ステータス要因を解除してください。
解除の方法は「Q2:」を参照してください。

Q2: 地区別移報F1～F5(火災代表ステータス要因)および遮断スイッチOP1～OP5の初期設定の解除方法がわかりません。

A2: F1～F5の初期設定が以下となっています。設定を変更するには、それぞれを解除する必要があります。
(1)火災代表ステータス要因の連動設定
(2)オプションスイッチOP1～OP5の遮断スイッチ設定

(1)については『■ 連動要因を[St(ステータス要因)]にするには』(p.56)、(2)については『3-10 遮断スイッチ設定[10.遮断スイッチ]』(p.71)の項目で、解除したい選択済み(点灯)の状態を未選択(消灯)の状態にすることで、設定解除します。

5 よくあるご質問 (Q & A)

以下に、初期設定を解除する方法を説明します。ここでは、F5から火災代表を解除する例で説明します。
F1～F5の初期状態(出荷時設定)

地区別移報	ステータス要因	遮断スイッチ
F1	火災代表	OP1：遮断スイッチ
F2	火災代表	OP2：遮断スイッチ
F3	火災代表	OP3：遮断スイッチ
F4	火災代表	OP4：遮断スイッチ
F5	火災代表	OP5：遮断スイッチ

『[■ 連動要因を\[St\(ステータス要因\)\]にするには](#)』(p.56)

『[3-10 遮断スイッチ設定\[10.遮断スイッチ\]](#)』(p.71)

操作

1 『[■ 連動要因を\[St\(ステータス要因\)\]にするには](#)』(p.56)で、F5から初期設定の火災代表ステータス要因を解除します。

- ① メニューから「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して[08.連動設定]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。
- ② 「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して[連動設定]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。
- ③ 「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して[St]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。
- ④ 「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して[火災代表]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。
- ⑤ 連動先[F]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。
- ⑥ 「△(上)」「▽(下)」「◀(左)」「▶(右)」スイッチを押して[005]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。
- ⑦ 「実行」スイッチを押します。

設定完了です。



2

『[3-10 遮断スイッチ設定\[10.遮断スイッチ\]](#)』(p.71)で、F5から初期設定の遮断スイッチ(OP5)を解除します。

- ① メニューから「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して[10.遮断スイッチ]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。
- ② 「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して[OP.05]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。
- ③ 「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して設定先[F]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。



5 よくあるご質問 (Q & A)

- ④ 「△(上)」「▽(下)」「◀(左)」「▶(右)」スイッチを押して[005]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。
画面表示で005の下線が消えた状態になっていれば解除設定されています。
- ⑤ 「実行」スイッチを押します。
設定完了です。

OP05遮断先F				
001	002	003	004	<u>005</u>
006	007	008	009	010
011	012	013	014	015

Q3: 表示機の設定方法がわかりません。

- A3:** 地区窓表示機の設定は自動連動設定が可能です。
『3-8-1 自動連動設定』(p.41)に従って自動連動設定を行ってください。
個別で設定する場合、『3-9 表示機設定[09.表示機設定]』(p.61)を参照し、以下の手順で設定を行ってください。結線方法は「施工説明書」を参照してください。
(操作1) 表示機の音響用に鳴動要因を設定する
(『3-9-1 地区窓表示機設定』/『■ 鳴動要因設定』(p.64))
(操作2) 表示機の音響用に音響出力端子を設定する
(『3-9-1 地区窓表示機設定』/『■ 音響出力端子設定』(p.66))
(操作3) 表示機への地区別移報出力の連動を設定する
(『3-9-1 地区窓表示機設定』/『■ 地区窓連動を設定するには』(p.67))
F6～F15を使用し、10L型表示機と接続する場合の設定例で説明します。

操作

1

表示機音響の鳴動要因を設定します。

『3-9-1 地区窓表示機設定』/『■ 鳴動要因設定』(p.64)で表示機音響の鳴動要因を設定します。

初期状態では、すべての回線が表示機音響鳴動要因(有)に設定されています

(設備区分が防排煙の場合、DA入力で鳴動する設定となっています)。

ここでは、8回線目を表示機音響の鳴動要因から解除(無)する方法を例に説明します。
なお、すべての回線を表示機音響鳴動要因にする場合には必要ありません。

- ① メニューから「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して[09.表示機設定]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。
- ② [地区窓表示機設定]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。
- ③ 「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して[音響設定]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。
- ④ 「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して[鳴動要因設定]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。
- ⑤ 「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して[火災/防排煙(L/DA)]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

鳴動要因設定
<u>火災/防排煙(L/DA)</u>
ガスもれ(GL)
諸表示入力(LX)

5 よくあるご質問 (Q & A)

- ⑥ 「△(上)」 「▽(下)」 スイッチを押して、[L008] 回線を選択し、「◀(左)」 「▶(右)」 スイッチを押して、項目L、DA共に[無]を選択します。
- ⑦ 「実行」スイッチを押します。
設定完了です。

表示機鳴動 (L/DA)		
L/DA 007	L:無	DA:有
L/DA 008	◀L:無	▶DA:無
L/DA 009	L:無	DA:有

2 表示機音響の鳴動要因を設定したあとは、表示機音響の出力端子を設定します。

ここでは、表示機音響の出力端子をF1に設定する場合を例に説明します。
F1は初期設定でステータス要因[火災代表]が設定されているため、「Q2」を参考に[火災代表]を解除してください。

- ① メニューから「△(上)」 「▽(下)」 スイッチを押して[09.表示機設定]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。
- ② [地区窓表示機設定]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。
- ③ 「△(上)」 「▽(下)」 スイッチを押して[音響設定]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。
- ④ 「△(上)」 「▽(下)」 スイッチを押して「音響出力端子設定」を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。
- ⑤ [F(PSU・ROU)]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。
- ⑥ 「△(上)」 「▽(下)」 「◀(左)」 「▶(右)」 スイッチを押して[001]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。
- ⑦ 「実行」スイッチを押します。
設定完了です。

音響出力端子設定 (F)					
001	002	003	004	005	
006	007	008	009	010	
011	012	013	014	015	

3 地区別移報Fを使用して、表示機のIn端子への信号を設定します。

[3-9-1 地区窓表示機設定] / 『[地区窓連動を設定するには](#)』(p.67)から表示機への出力を設定します(L1→F6、L2→F7…L10→F15とする場合)。

- ① メニューから「△(上)」 「▽(下)」 スイッチを押して[09.表示機設定]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。
- ② [地区窓表示機設定]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。
- ③ 「△(上)」 「▽(下)」 スイッチを押して[地区窓連動設定]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。
- ④ 表示内容を確認し、「▽(下)」スイッチを押します。
- ⑤ 「実行」スイッチを押します。
- ⑥ 「△(上)」 「▽(下)」 スイッチを押して[連動設定]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。
- ⑦ 「△(上)」 「▽(下)」 スイッチを押して要因[L]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

5 よくあるご質問 (Q & A)

- ⑧ 「△(上)」 「▽(下)」 スイッチを押して[001]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。
- ⑨ 「△(上)」 「▽(下)」 スイッチを押して連動先[F]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。
- ⑩ 「△(上)」 「▽(下)」 「◀(左)」 「▶(右)」 スイッチを押して[006]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。
- ⑪ 「実行」スイッチを押します。
実行完了後、表示が一つ前(⑨)に戻ります。
- ⑫ 「戻る」スイッチを押します。
- ⑬ 「△(上)」 「▽(下)」 スイッチを押して[002]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。
- ⑭ 同様の操作をL002～L010(F7～F15)で行います(手順⑨～⑬を繰り返す)。
設定完了です。

連動設定			
要因	L	001	1
先	F	[00点]	S[00点]
	D	[00点]	K[00点]

L001の連動先 F					
001	002	003	004	005	
006	007	008	009	010	
011	012	013	014	015	

連動設定			
要因	L	002	2
先	F	[00点]	S[00点]
	D	[00点]	K[00点]

Q4: 非常放送の設定方法がわかりません。

A4: 非常放送の設定は自動連動設定が可能です。

『3-8-1 自動連動設定』(p.41)に従って自動連動設定を行ってください。

個別で設定する場合、以下の手順で設定を行ってください。結線方法(階別信号(F)、火災確認信号(EC/EF)、非常放送終端器(EB±))は「施工説明書」を参照してください。

(操作1) 階別信号を設定する(『3-8-3 連動設定』(p.53))

(操作2) 非常放送遮断スイッチを設定する

(『3-10 遮断スイッチ設定[10.遮断スイッチ』(p.71))

(操作3) 非常放送終端器EB±を設定する

(『3-20 非常放送終端器設定[20.非常放送終端器EB±』(p.84))

L1～L5の火災入力と、F6～F10階別信号を連動する場合の設定例で説明します。

操作

1 『3-8-3 連動設定』(p.53)で階別信号を設定します。(L1→F6、L2→F7……L5→F10とする場合)

- ① メニューから「△(上)」 「▽(下)」 スイッチを押して[08.連動設定]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。
- ② 「△(上)」 「▽(下)」 スイッチを押して[連動設定]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。
- ③ 「△(上)」 「▽(下)」 スイッチを押して要因[L]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。
- ④ 「△(上)」 「▽(下)」 スイッチを押して[001]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。

連動設定			
要因	L	001	1
先	F	[00点]	S[00点]
	D	[00点]	K[00点]

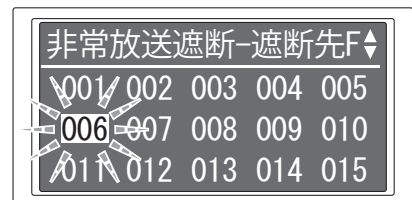
5 よくあるご質問 (Q & A)

- ⑤ 「△(上)」 「▽(下)」 スイッチを押して連動先[F]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。
- ⑥ 「△(上)」 「▽(下)」 「◀(左)」 「▶(右)」 スイッチを押して[006]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。
- ⑦ 「実行」スイッチを押します。
実行完了後、表示が一つ前(⑤)に戻ります。
- ⑧ 「戻る」スイッチを押します。
- ⑨ 「△(上)」 「▽(下)」 スイッチを押して[002]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。
- ⑩ 同様の操作をL002～L005 (F7～F10)で行います(手順⑤～⑨を繰り返す)。
設定完了です。



2 『3-10 遮断スイッチ設定[10.遮断スイッチ]』(p.71)の「非常放送遮断」スイッチでF6～F10を遮断する設定を行います。

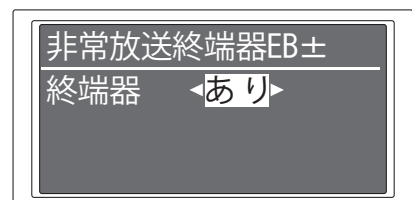
- ① メニューから「△(上)」 「▽(下)」 スイッチを押して[10.遮断スイッチ]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。
- ② 「△(上)」 「▽(下)」 スイッチを押して[非常放送遮断]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。
- ③ 遮断先[F]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。
- ④ 「△(上)」 「▽(下)」 「◀(左)」 「▶(右)」 スイッチを押して[006]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。
- ⑤ 操作④を007～010にも行います。
- ⑥ 「実行」スイッチを押します。
設定完了です。



3 『3-20 非常放送終端器設定[20.非常放送終端器EB±]』(p.84)で「断線・短絡監視あり」に設定します。

非常放送と地区音響を併用しない場合(非常放送のみの場合)には、設定の必要はありません。

- ① メニューから「△(上)」 「▽(下)」 スイッチを押して「20.非常放送終端器EB±」を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。
- ② 「◀(左)」 「▶(右)」 スイッチを押して[あり]を選択します。
- ③ 「実行」スイッチを押します。
設定完了です。



5 よくあるご質問 (Q & A)

Q5: 異常代表(トラブル代表)の信号を移報したい。

A5: 連動設定で移報できます。



Point

- ・ 異常代表は異常灯の点滅時に出力します。交流電源断(AC100Vが断した場合)は含みません。
- ・ 「異常代表」または「主電源断(停電時)」の移報では、正常時にリレーがオン状態となり、移報先に設定したFnのc-a端子間が導通します。異常時にオン信号が必要な場合は、F4、F5(c接点)のc-b端子間を使用してください。
- ・ 「異常代表」または「主電源断(停電時)」の移報接点には、他の連動要因(火災代表や地区別移報など)を設定せず、単独の接点としてください(他の連動要因と組み合わせることはできません)。ただし、「異常代表」と「主電源断(停電時)」のみを組み合わせた連動は可能です。その場合、「異常代表」または「主電源断(停電時)」のどちらかの出力要因が発生した場合に、出力(F4、F5の場合、c-b端子間がオン)されます。
- ・ 異常代表を遮断していても、電源OFF(交流電源消灯)になると、異常代表を出力します。

ここでは、F5を異常代表に設定する場合の例で説明します。

F5は初期設定でステータス要因[火災代表]が設定されており、またOP5は初期設定でF5に対する[遮断スイッチ]が設定されているため、「Q2」を参考に解除してください。

操作

1

『3-8-3 連動設定 / ■ 連動要因を[St(ステータス要因)]にするには(P.56)』
で異常代表に設定します。

- ① メニューから「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して[08.連動設定]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。
- ② 「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して[連動設定]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。
- ③ 「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して[St]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。
- ④ 「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して[異常代表]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。
- ⑤ 連動先[F]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。
- ⑥ 「△(上)」「▽(下)」「◀(左)」「▶(右)」スイッチを押して[005]を選択し、「設定/確認」スイッチを押します。
- ⑦ 「実行」スイッチを押します。
設定完了です。



5 よくあるご質問 (Q & A)

Q6: 日時設定は必要ですか？

A6: 必要です。日時設定をしていない場合、異常表示を行います。また、履歴の確認日時または自動試験の開始日時(106Sシリーズのみ)がずれてしまいます。設定方法については、『取扱説明書』を参照してください。通常モードで設定します。データベース設定モードでは設定することができません。

Q7: 火災回線(L)および防排煙回線(L/DA)では、[02.設備区分(L/DA)]設備区分を「諸警報」に設定することはできますか？

A7: 設定できます。防排煙回線(L/DA)はL、DAの両方で諸警報入力を検出します。

Q8: [02.設備区分(L/DA)]で設備区分を「諸警報」とした場合、警報を保持することはできますか？

A8: できます。

[『3-22 諸警報保持設定\[22.諸警報保持\]』\(p.85\)](#)で保持設定を行ってください。
保持した回線は復旧スイッチで警報表示を復帰します。

Q9: [02.設備区分(L/DA)]を変更した場合、設定内容は消去されますか？

A9: 設備区分を変更すると、その回線は初期状態に戻ります。詳細は[P.20](#)を参照してください。

Q10: 盤面でのデータベース設定またはDBTOOLでしかできない設定はありますか？

A10: 以下はDBTOOLでしかできません。

- 各種文字情報:種別名称、状態文字、オプションメッセージ、移報先、スイッチ名称
- 印刷機能
- CSVエクスポート

Q11: オプションスイッチを「遮断スイッチ」に設定した場合、電源投入時に遮断状態で起動しますか？

A11: 電源投入時は一括遮断スイッチが押された状態で起動します。オプションスイッチを「遮断スイッチ」に設定した場合も一括遮断スイッチに含まれるため、遮断状態で起動します。

Q12: ROU基板およびSOU基板の枚数設定はどのように行いますか？

A12: 本機ではROU基板やSOU基板の枚数設定はありません。連動設定することで、自動で認識します。

Q13: ROU基板を内蔵した(型名の末尾に「T」が付く機種)盤を手配しましたが、受信機を起動してもROU基板上にあるLTX灯(伝送灯)が点滅しません。

A13: 本機は、データベースでROU基板の個別移報(Fn)に連動設定を行った際の最大の端子番号を含む基板アドレスまでの基板間伝送異常を監視します。
連動設定を行っていない場合はLTX灯は点滅しないので、未設定の場合は連動設定を行ってください。すでに連動設定を行った場合は、何番の端子まで個別移報(Fn)の設定を行ったのかを確認してください。

NOHMI 能美防災株式会社

本社	〒102-8277 東京都千代田区九段南4-7-3 TEL.(03)3265-0211 (代)					
支社	北海道(011)746-6911	東北(022)221-2695	新潟(025)243-8121	丸の内(03)3213-1781		
	茨城(029)239-5280	千葉(043)266-0303	北関東(048)669-2255	西関東(042)643-1520		
	横浜(045)682-4700	静岡(054)340-0013	中部(052)589-3241	長野(026)227-5521		
	北陸(076)252-6211	関西(06)6330-8661	京都(075)694-1192	中国(082)510-1125		
	岡山(086)244-4222	九州(092)712-1560				
営業所	旭川(0166)25-5600	青森(017)729-0532	盛岡(019)645-0552	秋田(018)862-5086		
	郡山(024)947-1194	福島(024)528-4195	羽田(03)5757-9393	渋谷(03)3461-1051		
	新宿(03)5990-5770	城東(03)3626-2461	土浦(029)822-3851	宇都宮(028)637-4317		
	群馬(027)328-1567	埼玉西(049)247-4640	沼津(055)955-5227	浜松(053)473-3422		
	三重(059)226-9860	岐阜(058)201-3771	富山(076)444-1450	福井(0776)21-0056		
	神戸(078)334-3581	四国(087)868-6811	北九州(093)583-3344	長崎(095)845-0135		
	熊本(096)360-1051	大分(097)543-2778	宮崎(0985)28-8792	鹿児島(099)253-8196		
工場	三鷹(0422)44-5141	メヌマ(048)588-1531				

URL <https://www.nohmi.co.jp/>

記載の電話番号は2024年1月現在のものです。

お問い合わせは…

- このマニュアルの内容は、改善のため事前連絡なしに変更する場合があります。
- このマニュアルに記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。
- 落丁、乱丁本は、お取り替えいたします。
- 外観図などの資料は、下記の2次元コードまたはURLからダウンロードできます。



URL https://www.nohmi.co.jp/shoninzu/shoninzu_index.html